

# 奈良県立医科大学 学報



## CONTENTS

病院長就任挨拶	1~2
副院長就任挨拶～副院長新体制～	2
医療安全推進室新体制/DMAT車新装	3
入学式式辞	4
新入生挨拶/オリエンテーション	5
叙勲を受賞/中島佐一学術研究奨励賞授賞式/廠欄学術奨励表彰式	6
看護学研究科(修士課程)開設/研究医養成コース開設	7
医学部医学科の担任制導入/平成25年度医学部医学科入学者選抜試験	8
オープンキャンパス開催案内/大学院入試日程	9
クラブ紹介(剣道部・キター部)	10
図書館だより	11
平成23年度決算	12~13
平成24年度科学研究費補助金決定	14~16
産学官連携だより	16~17
アメニティの改善/基礎医学校舎の管理システムの更新	18
医療倫理講習会開催	
看護部から 所屬紹介(C4・B7・B8)	19
フレッシュマン紹介	20~21
なかよし保育園の学生ボランティア活動	22
AED寄附/公開講座開催案内	23
日本生化学会近畿支部例会優秀発表賞受賞	
日本造血細胞移植学会総会学術奨励賞/看護功労賞知事表彰受賞	24
自己血輸血看護師奨励賞受賞	
レポート/メディア掲載情報	25
看護師・助産師募集/下ツ道/広告	26

July  
2012

vol.41

## 奈良県立医科大学附属病院病院長に就任して

奈良県立医科大学附属病院 病院長 古家 仁

この4月から奈良県立医科大学附属病院病院長に就任致しました。学報に病院長としての方針、考えていることを中心に述べる機会を得ましたので少し記載させていただきます。

私は1985年(昭和60年)に国立循環器病センターから本学に麻酔科助教授として着任し、その後1995年(平成7年)に麻酔科教授に就任し、本年から病院長となりました。四半世紀本学でお世話になってきたこととなります。その間奈良県立医科大学の良い点、悪い点、さらに、大学として、奈良県として、また、日本の医療について良い点、悪い点、いろいろ感じながら、考えながら、また悪い点に関しては改革を試みながらやってまいりました。今回病院長という一つの科ではなくて病院全体に関わることができるという立場になりましたので、大学として良い点は伸ばし、悪い点は改革すべく努力をしていきたいと思っています。

本学の良い点は、やはり地域に密着した医療を行いながら、先進医療も行う、という市民病院の面と高度先進医療を行う面の両方を併せ持つという点だと思います。このことはすべての医療従事者の能力を上げることにつながると思います。また、もう一つ常に感じていたことはみんなよく働く、働くことをいとわない、逆にある意味働きすぎではないかとも感じています。これは病院自体が必然的に働かざるを得ない環境なのかもしれませんが、過重労働はそれだけ肉体的にも精神的にも負担がかかります。少しでも軽減するためには病院の労働環境を整えることが重要だと思っています。人を増やしたり、役割分担を明確にしたりすることは簡単にできることではありませんが、人を増やすこと、チームとして活動できる形を作ることが現場での業務をスムーズにするためにはぜひ必要なことだと考えます。そして働いている人たちが満足して働ける環境を作るように努力することが病院長の役目です。ただこれは病院長一人では解決できません。全職員の賛同と協力とバックアップが必要です。

労働環境の整備以外に力を入れていかなければならない点が2つあります。一つは医療安全の浸透であり、もう一つが医療の質の向上とその公表です。

医療安全の浸透では、ミスを犯さないシステムの構築をしたいと考えています。その一つの方法として、チェックリ

ストの運用があります。たとえば、外科手術では、WHOがsurgical safety checklistの運用を提案しており、本学でも採用して実質的な活用ができる方向に行きたいと考えています。そしてすべての職場でのチェックリストの運用にまで広げていくことができれば安全性は高まると思っています。もう一点重要なこととしてノンテクニカルスキルの習得があります。医療は、技術的に必要な力（テクニカルスキル）を有するところが出発点です。これは医師だけでなく、看護師、薬剤師、その他すべての職種に通じます。テクニカルスキルが不十分なスタッフは必ず能力のある指導者の指導、監視のもとに行うことが原則です。この考えを浸透させたいと思っています。テクニカルスキルが身についた時点で初めて安全な医療を行う基本ができます。いくら技術的に優れていても一人だけで安全は確保できません。そこで重要なのが個人ではなくチームでの関わりであり、そこにノンテクニカルスキルが関わってきます。このノンテクニカルスキルの能力を全職員に学んでもらいたいと思っています。紙面の都合で今回はここでとどめておきますが、いずれ機会を見てノンテクニカルスキルについての考え、方針、さらに、医療の質の向上と公表についての考えと方針についても考えを述べたいと思っています。

奈良県立医科大学附属病院が県民、国民に対して今以上に質の高いそして安全な医療を提供できるよう努力してまいります。ご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 副院長就任挨拶

### ～副院長新体制～



後列;左より齋藤教授、上野山技師長  
前列;小林教授、古家病院長、大名看護部長

#### 産婦人科 教授 小林 浩

平成24年4月1日付けで副院長（外科系）に就任させていただきました産婦人科の小林です。私は平成17年から本学産婦人科に勤務させていただいており、これまで主に婦人科腫瘍を中心に診療に携わって参りました。これからは副病院長を兼任し、病院運営・経営・医療安全面で院長をサポートし、患者さん並びに医療従事者にとっても安全かつ適切な医療を提供するための仕事を行って参る所存です。どうぞ皆様のご温かいご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

#### 内科学第一 教授 齋藤 能彦

本年4月より、副院長を拝命いたしました齋藤能彦です。奈良医大の変革の時期にこの様な重責を仰せつかったことは身に余る光栄に存じますとともに身の引き締まる思いです。内科系講座の代表と講座のあり方委員会を代表した立場から病院運営に尽力せよとのご命令と認識しております。奈良医大と附属病院の発展に向けて精進いたす覚悟ですので、皆さま方のご協力とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

#### 中央放射線部 技師長 上野山 文男

このたび、引き続き副院長に就任致しました。新棟が平成27年度に完成予定です。今、私たちが求めていることは、新棟が心に描いた理想に近い現実として立派に完成し、先進的な医療を県民に提供続ける環境が整備されることです。このことは、必ず達成されると思いますが、そのためにもチーム医療を推進し中央放射線部はもとより多職種からなる部門、スタッフとも力を合わせて新しい附属病院のため頑張りたいと思っています。どうぞ皆様のご協力をお願い申し上げます。

#### 看護部 部長 大名 美記子

平成24年4月1日付けで副院長を拝命致しました大名です。看護部は組織の過半数を占める大組織であり、看護師に期待される役割も日々変化し、病院経営への参画が大いに求められています。

とりわけ、直面する課題は看護職確保にあり、7：1看護配置は、定数管理のしばりの中で日常の課題です。病院全体が有機的に機能し、良質な医療が提供できるよう努力して行きたいと考えています。微力ではございますが全力で取り組みますので、皆様のご支援よろしくお願い申し上げます。

# 医療安全の推進と浸透を目指して

植村 正人



今年4月、第3内科准教授から病院教授の称号を吉岡 章学長から拝命し、古家病院長の御指名を受け、奈良医大の医療安全推進室長を担当させて頂けることになりました。医療安全推進室への専任医師の配属は全国でも未だ少なく、「医療安全の浸透と医療の質の向上」を最重要課題に掲げられた院長の目標を推進すべく努力する所存です。

現在、医療安全推進室のスタッフは、錦 三恵子室長補佐兼看護副部長、田中麻理師長、事務担当の杉本千代さん、そして私の4人体制です。年間約4000件のインシデント・アクシデントを分析し、医療現場に潜むリスクをいち早く捉え、現場にフィードバックすることを目標に、医療安全管理の為に種々のマニュアル作成、システムの見直し、医療環境の整備などの対策を早急に立てるべくスタッフ一同頑張っております。

医療事故を未然に防ぐためには、全職員の医療安全に対する意識の向上が不可欠であります。インシデント・アクシデント発生時の処理・報告・防止に関する現場の責任者でありますリスクマネージャーの方々を交えて毎月リスクマネージャー会議を催し、全職員に対する医療安全教育を目的として、医療機器・医薬品の安全管理、事故防止集中セミナー、院外講師による講習会を開催しております。そして今年5月、病院長発案の M&M (Morbidity & Mortality) conference (発生要因を探り、対策・発生予防を目的とした検討会)を奈良医大で初めて開催し、100名を越すスタッフの方々に出席して頂けました。

医療は「安全」であるのが当然であります。その安全を維持するのが如何に大変で、難しいことであるか、私も30数年来、奈良医大で多くの患者の診療を通じて身に沁みております。研修医時代、『安心してかかる医療、思いやり・愛情の医療を目指すように』と当時の主任教授からご教授頂きましたが、この言葉を胸に奈良医大の名に恥じないように、「医療安全の推進と浸透、そして医療の質の向上」に努力するつもりです。

皆様方のご支援、ご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

(病院管理課)

## 待ちに待ったDMAT車がやってきました!!!

平成24年3月23日、待ちに待ったDMAT車がやってきました!!!

DMATとは、災害急性期に機動性を持った活動ができるようにトレーニングを受けた医療チームのことで、災害派遣医療チーム(Disaster Medical Assistance Team) DMATの頭文字をとってディーマットと呼ばれています。奈良医大には現在4チーム(1チーム医師2人、看護師2人、事務1人)あります。

DMAT車はDMATが災害現場に向かうための車で、写真のように救急車とほぼ同じような外見を呈していますが、これが重要で、誰が見ても医療者が乗っているとわかるので、交通規制のかかっている災害現場にも通してもらいやすくなります。この車を切望してもう4-5年になります。もう絶対に無理だと思っていたのですが、奈良県が予算を付けてくださって急に買ってもらえることになり、このたび我々の前にやってきたわけです。

厚労省によるDMAT養成は平成17年に始まりましたが、それ以降災害医療はかなり変化しました。以前は災害発災時に発生した重症者は救急車で搬送し、軽傷者を災害現場の救護所で処置をするという体制でした。DMATが出来てからは、重症者が発生した場合、まずは現場の救護所でDMATが治療を行い、搬送に耐えうように状態を安定させてから、DMATも関わって搬送するようになりました。つまり早期に必要な治療を行うことにより、搬送中や病院到着直後に亡くなってしまおうような方々を出来るだけ少なくしようとするものです。これらの災害急性期の治療のため多くの医療資機材を持参することが必要ですし、治療以外にも患者搬送活動や災害本部活動や病院支援なども行うためのチームでもあり、また自分たちの食料や水なども自己完結型であるので多量に持参することが必要で、多くの物品が運搬できる車がどうしても必要でした。いつもは普通のバンをDMATの車として使用させていただいておりましたが、DMAT隊員1チームが乗車すると物品は殆ど積むことが出来ませんでした。東日本大震災の時には病院の救急車をお借りしましたが、これからは気兼ねなく近隣地域での災害発生時にも、この車で出勤できるようになりましたので、体制を整え頑張りたいと思います。

一同、新しいDMAT車という「DMATの足」を手にした喜びを胸に、今後とも、きたる災害に備えすぐれた「DMATの手」となれるよう努力していきたいと思っております。



# 平成24年度入学式式辞

## 諸君は「何か」を背負っている



遅い春一番が日本列島を吹き抜きました。嵐が一過した今日のこの良き日に、医学部医学科113名、看護学科85名、看護学科3年次編入学生12名、合計210名の晴れやかな諸君をこの奈良県立医科大学に迎えることができたのは、私どもの大きな喜びとするところであります。入学生諸君に対し心から「おめでとう」と申し上げるとともに、大学を代表して歓迎の意を表します。折から、校庭の桜もこの日を待ちわびていたかのように咲き始めました。

本日ご多忙の中御臨席いただきました、奈良県知事 荒井正吾様、奈良県議会議長 国中 憲治様、県議会議員、地域医療体制整備促進特別委員長 森山 賀文様、県議会議員 神田 加津代様、岡 史朗様、奈良県医療政策部部長 武末 文男様、医学科・看護学科各同窓会会長をはじめ、来賓の方々、関係各位に対しまして厚く御礼を申し上げます。

さて、諸君が本学を目指して勉学に励んだこの1年間には、3.11という大地震と大津波、そして、原子力発電所の爆発と放射能汚染という大災害がありました。また、9月には奈良県南部や和歌山県では台風12号による大水害と山津波がありました。それぞれ多くの犠牲者が出、甚大な被害を被りましたし、今なお、不自由な避難生活を送っておられる住民も数多くおられます。

私共奈良医大は、地震当日、仙台市へDMAT(災害派遣医療チーム)を送り、その後も6月まで奈良県チームとして気仙沼市に医療班を派遣しました。また、地元、五條市や十津川村へも医師・看護師による医療支援を行いました。さらに、本学学生ボランティアグループ「奈良ウィル」は、福島県にも本県南和地域にもお手伝いに出かけました。また、「奈良ウィル」は、本年の3月11日には福島県立医科大学と和歌山県立医科大学の学生計3名を本学に迎え、講演会と追悼記念行事を催しました。これは、真に心のもった素晴らしい集会であったと、福島医大の菊地学長、大戸医学部長からも感謝と称讃のメールが届きました。

諸君は、これらの大災害を経験して、自然の大きな驚異の前には人間の知恵と努力だけではいかんともしがたいものがあることを学びとったものと思います。そして同時に、大きな困難の前では、人々の心の絆が何よりも大切であることを身近に感じとったものと思います。

私は、昨年のこの入学式で、元早稲田実業高校、早稲田大学野球部の優勝投手であり、現日本ハムファイターズの斎藤佑樹投手の言葉を引用し、「あなた方一人一人は、何かを背負っている」と語りかけました。

斎藤投手は間違いなく「何か」を持っていることを、今年の西武ライオンズとの開幕戦でも見事に証明しました。それは、彼自身の初の完投勝利でした。そして同時に、私が感嘆したのは、勝利インタビューで「今は何かを持っているというのではなく、背負っています」と言ったことでした。彼は、もはや仲間や才能や運を持っているだけではなく、背負っているのは「エースの責任である」と言っていたのです。

斎藤投手が背負っているのが「エースの責任」とすれば、諸君がこれから背負うことになるのは、患者さんや県民、国民からの大きな「期待」であり、その期待に応えているとい

う「責任」であります。

もちろん私共奈良医大が背負っているものもあります。医科大学は良き医師、良き看護師を育成するという大きな「責任」を背負っています。学生諸君をして、プロの医療人に育成するために、医科大学は教育、研究、診療を行います。また、この3要素をちょうど横串のように貫くもう一つの重要な要素は、「地域貢献」であります。奈良医大はこれも背負っています。

医科大学での教育においては、知識と技能はもちろんのこと、地域の人々に尽くすという心・マインドの教育が求められます。また、研究においても世界をリードする先端医学研究はもちろんのこと、産学官連携による奈良医大ならではの独創的な研究と、その成果の地域への還元が求められます。診療では、高度で先進的な専門医療はもちろんのこと、身近な救急医療や健康増進の面でも、本学は地域に大きく貢献することが求められます。

このように、本学が背負っている最も大きな責任は、地域の医療に率先して貢献する医師・看護師をいかに多く地元奈良に輩出するかということにあるのです。

本学の教育面では、本年度から大きな期待を込めて新しく導入したものが二つあります。

一つは、看護学科に助産師養成コースを含む看護学専攻の大学院修士課程を設置したことです。この春、第1期生、定員10名に対して12名が入学しました。将来の看護系指導者となる人材養成が本格的に始まろうとしています。

もう一つは、医学科の「研究医養成コース」の設置であります。将来、基礎医学や社会医学の研究者や教育者になりたいという学生を、2年生後半に編入学生として学外から2名選抜し、学内希望者2名を加えた計4名で医師免許を持った研究者、即ち「研究医」を育成して参ります。

本学はすでに、4年前から奈良県の助成を得て医師不足の明らかな産婦人科、小児科、麻酔科、救急科、総合診療科といった特定診療科に進む学生と、へき地医療に携わりたいという学生を緊急医師確保枠として選抜し、地域医療に重点を置いたカリキュラムで育成中であります。

将来、各診療科の専門医を目指す、多くの学生諸君のための「地域基盤型医療教育コース」は、全学生の共通コースとして実施されますが、上記のように目的の明確な、特徴ある特別コースを次々に設置し、学生諸君の希望に応じたオプションなキャリアパスを学生時代の早期から用意して参ります。諸君は自身の目指すコースで思う存分勉強して下さい。

諸君が学ぶ奈良医大の歴史は、まだ67年ですが、ここ大和橿原、明日香の地は、592年の推古天皇の豊浦宮(とゆらのみや)での即位以降、飛鳥京、藤原京を経て、710年の平城京遷都まで日本の最初の都が置かれた首都そのものであります。どうか諸君、21世紀の最新の医学・医療・看護学をここ奈良医大で堂々と学んで下さい。そして、1400年前の最古の都であったここ大和橿原の地に慣れ親しみ、青春を謳歌し、第二のふる里として愛して下さい。

諸君の学生生活の安全と豊かならんことを祈ります。

## 新入生挨拶

### 医学科1年 浅井 祐志 (あさい ゆうじ)



希望と期待に胸を膨らませ入学式を迎えた桜の咲く春の晴れた日から早くも3ヶ月が経ちました。新たな環境に不安もありましたが、担任の先生、先輩、同級生の支えによって大学生活にも慣れ、勉強や部活動に打ち込むなど充実した毎日を送っています。私達新入生は、これからの6年間を通して、豊かな人間性と確かな医療・知識を兼ね備えた社会からの期待に応えられる医療人となれるよう互いに研鑽する所存でございますので、先生方および先輩方、御指導御鞭撻のほど、何卒よろしくをお願いいたします。

### 看護学科1年 森川 愛弓 (もりかわ あゆみ)



満開に咲き誇る桜の木々に見守られながら、私たち新入生は奈良医大に入学しました。ようやく授業に慣れてきたと安心するのも束の間、課題に追われる毎日です。しかし、課題を通してクラスメイトと意見交換を行い、互いに切磋琢磨しています。個々、人の目指す最終地点は異なりますが、「医療従事者になる」という大きな目標を胸に刻み、クラス全員が各々の夢を叶えるため、毎日一生懸命学んでいます。まだまだ分からないことが山積みです。先生方、先輩方には厳しくも温かなご指導をよろしくをお願いいたします。

## 新入生課外研修を行いました

医学科113名、看護学科97名（編入3年生12名を含む）の新入生を対象に、4月5日から6日にかけて1泊2日の課外研修を行いました。

医学科（宇陀市榛原「美榛苑」）では、臨床研修医及び後期研修医の卒業生5名から医師としての生活や、学生時代の思い出について聞かせて頂きました。また新入生同士は、他己紹介という形で交流を図りました。

看護学科（奈良市針町「ボスコヴィラ」）では、「将来、医療従事者になるにあたって」というテーマで、現在本学附属病院で勤務している卒業生3名から出発前にメッセージを頂き、これをもとにして自分たちの考えをグループワークでまとめ発表しました。また、2～4年生の先輩達による学生会主催の交流会も行われました。

入学式から3日間のオリエンテーションで、両学科とも先輩方からの貴重な話により、医学部に入学した実感を得られたようです。また、学生同士の交流により緊張もほぐれ、新しい生活に向けて充実した時間を過ごせたのではないかと思います。



## 西尾前副理事長が叙勲を受章!!

叙勲は、国家又は公共のために功労のあった方を対象に授与されています。  
去る、4月29日に春の受章者の発令があり前副理事長の西尾 哲夫氏が受章されました。  
心からお祝い申し上げます。

**瑞宝中綬章 西尾 哲夫氏 (前副理事長)**

(研究推進課)

## 第19回 中島佐一学術研究奨励賞の授賞式を開催しました



後列：左より推薦者の吉川教授、坪井教授  
前列：左より田中助教、吉岡学長、吉原助教

6月11日(月)、臨床第一講義室において、中島佐一学術研究奨励賞の授賞式が行われました。

今回の受賞者は、放射線医学講座の田中利洋助教、脳神経システム医科学の吉原誠一助教のお二人で、受賞者にはそれぞれ賞状、記念品の楯及び研究奨励金が授与されました。

引き続き実施された受賞者講演会では、受賞研究テーマに沿って、田中助教が「進行膵癌に対するIVR技術を駆使した新規動注療法の開発」、吉原助教が「嗅球における感覚入力依存的な神経回路再編の分子機構」と題して講演されました。

ました。

この賞は、故中島佐一名誉教授のご遺族からの寄附金を財源として、医学の学術研究に優れた業績をあげた本学の若手教員に対して授与し、さらなる研究の発展を奨励することを目的としています。

毎年、各所属に応募要項を案内していますので、若手教員の積極的なご応募をお待ちしています。

(研究推進課)

## 厳樞学術奨励賞の表彰式が行われました

6月16日(土)、厳樞会館3階大ホールで開催された奈良県立医科大学医学部医学科同窓会総会において、厳樞学術奨励賞の表彰式が行われました。

今回の受賞者は、脳神経外科学講座の松田良介助教で、同窓会会長・八木正躬氏より、代理出席された脳神経外科学講座の杉本正助教に賞状と副賞の海外留学助成金が授与されました。松田助教は、平成23年7月1日～平成24年6月30日まで、モンペリエ大学脳神経外科(フランス)に留学中であり、神経膠腫に対する覚醒下手術を中心とした集学的治療の習得に励まれています。

この賞は、奈良県立医科大学医学部医学科同窓会が、その目的たる母校の発展の一助とするため、海外において学術の研究、調査等に従事する者に対し、その費用の一部を海外留学助成金として支給しているものです。

毎年、各所属に募集要項を案内していますので、積極的なご応募をお待ちしています。



同窓会会長・八木正躬氏より、杉本正助教  
(松田良介助教の代理)へ表彰状の授与

## 看護学研究科(修士課程)が開設されました

本学では、「豊かな感性・人間性と高度専門職業人としての倫理観を備え、高度化・専門分化および多様化していく医療に要求される知識や技術を的確に習得・発展させながら、実践科学としての看護学を探究する高度な実践能力と基礎的な研究能力を有する看護職者の育成をめざす」ことを理念とし、平成24年4月1日より大学院看護学研究科を開設しています。専攻コースは以下のいずれかとなります。

- ①【看護学コース】：「資質の高い看護職者の養成」「看護学の進歩に伴うリーダーの養成」「在職者の再教育」に重点をおいた教育
- ②【助産学実践コース】：助産師国家試験受験資格を得ることができ、「母と子および家族に対するケアの開発研究や高度な実践力を持ち、他分野と協働しながら母子保健に貢献できる研究者・実践者」の育成を目指す

大学を卒業された方のみでなく、3年課程の看護師学校養成所(各種学校を含む)を卒業し、看護師として3年以上勤務経験がある等の条件を満たせば、出願できます。また、看護学コースにおいては、病院等に勤務しながらの就学も可能です。自分自身の看護の可能性を広げるためにも、本看護学研究科への積極的なご応募をお待ちしています。

### ●本年度入学生のコメント

#### 奈良県立医科大学看護学研究科に入学して

成人看護学専攻 下辻 聖子

私が本学大学院を志したきっかけは、昨年度奈良県指導者講習会にも受講する機会を与えていただいたことからです。その講習会では、自己の看護を振り返る大変良い学びが出来ました。その中で、経験だけではなく科学的な根拠を基にした看護が行えるように、今一度学問としての視点で看護をもっと深く学んでみたいと思っていました。

その折、今年度奈良県立医科大学看護学研究科が開設されるということを知りました。臨床での看護のやりがいを日々感じていたため仕事を辞めて大学院だけに専念するという決心がつかないのですが、仕事を継続しながら学ぶことが可能であると知り、大学院への進学を決意しました。

大学院で学んでいる自分の姿を励みにしながら入試勉強にも力が入りました。入試の際の面接で「大学院は自分で学ぶところ」と言われ、かなり緊張しましたがなんとか合格させていただきました。

授業形態は講義・ディスカッションと様々でとても楽しく学ぶことが出来ています。カリキュラムの内容としては、看護理論・看護研究方法論・成人看護学・家族看護学など自分で選択し、受講しています。担当の石澤教授より「大学院に行くことで今まで以上に看護を実践することの意味や根拠を学ぶことができるよ」というお言葉を頂きました。課題は多く大変ですが、臨床で行っていた看護を科学的に振り返ることが出来て、改めて看護の素晴らしさ・奥深さを感じています。また、臨床での看護実践と看護理論との照合やその必要性について再発見し、自分の看護を振り返ることができています。

看護学研究科と病院が同じ敷地内にあり距離的に恵まれており、病院側・大学側に様々な面でご配慮いただき、このような機会に恵まれたことに感謝し、仕事と勉学の両立に益々精進したいと思います。

## 「研究医養成コース」がスタートしました。(教育支援課)

医学部医学科において、平成24年度から「研究医枠」として2名の増員が認められました。これは他大学から第2年次編入学生として2名を募集し、内部から募集した2名と合わせた4名を、新たに設ける6年一貫教育授業科目「研究医養成コース」の履修により、基礎医学系・社会医学系の研究医として養成するものです。また、「研究医養成コース」の履修者には、入学月から卒業月まで、月額20万円の修学資金が支給されます。

この事業は本学と関西医科大学、早稲田大学との連携事業として文部科学省の医学部定員増に関する取組に応募し、公立医科大学として唯一本学が採択され、実施しているものです。したがって、本学の将来にとって極めて重要な取組です。在学中は、基礎医学系・社会医学系研究室でメンター実習を中心に研究を進めていきます。卒業後には、医師国家資格を取得するとともに、大学院に進学して学位を取得し、将来の医学研究者としての第一歩を踏み出していく予定です。

すでに述べたように、学内からも医学科2年生を中心に選考を行う予定ですから、研究医を志望する人は是非チャレンジしてください。

## 医学科1年生を対象とした「担任制」をスタートしました

4月になって新入生が入ってきました。新入生諸君は気持ちも新たに医師や医学研究者をめざして勉学に励もうと考えているかと思いますが、一方では生活環境や周辺環境の変化等から、期待や希望とともに、不安を抱くことも多くなるのではないのでしょうか。

学生が教職員と交流し、日常の様々な悩みに対する相談の場や、自らの将来像を描くことを少しでも支援する役割を担うものとして、平成24年度から医学部医学科1年生を対象に「担任制」を行うことになりました。

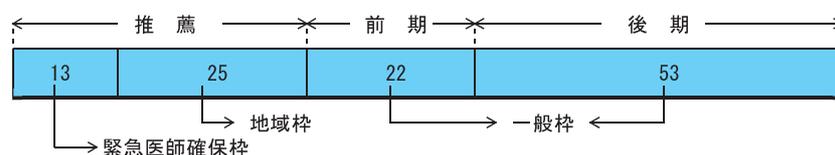
実施方法については医学科学生生活部会で検討を重ね、担任一人あたり、3～4名の学生を受け持ち、年間4回程度の懇話会をもとに学生との交流を図るということで「担任」の募集を行ったところ、33名の教授と准教授から「担任」就任の声を挙げていただき、制度をスタートさせました。

新しい制度であり、様々な試行錯誤も考えられますが、よりよい方法で新入生を支援できるようにしていきたいと考えていますので、関係される皆様のご協力、ご支援をお願いします。

## 平成25年度医学部医学科入学者選抜試験案内

医学部医学科では、将来の奈良県医療を担う熱意にあふれた、高い学力を持つ学生を募集するため、平成25年2月～3月に実施する入学者選抜試験を下記により行います。

募集人員113名



推薦選抜試験(緊急医師確保枠)  
推薦選抜試験(地域枠)  
一般選抜試験(前期日程)  
一般選抜試験(後期日程)

13名:センター、学科試験(A)、面接  
25名:センター、学科試験(A)、面接  
22名:センター、学科試験(A)、面接  
53名:センター、学科試験(B)、面接

試験区分		センター試験	個別学力検査	面接	合計
推薦選抜試験	緊急医師確保枠		(A)		
	地域枠	900点 (最終合格者決定時は1/2倍(450点))	450点	実施	900点
一般選抜試験	前期日程		(B)		
	後期日程	900点 (最終合格者決定時は1/3倍(300点))	900点	実施	1200点

- ◎推薦選抜試験は高等学校卒業後2年までの者が対象で、このうち「地域枠」は「奈良県内の高等学校の在学、卒業生」又は「奈良県内在住者」だけが出願できます。
  - ◎大学入試センター試験の成績を本学指定の得点に換算(900点満点)し、一般選抜試験(後期日程)はその結果を1/3倍、それ以外の試験は1/2倍した成績を最終合否判定に用います。
  - ◎推薦選抜試験、一般選抜試験(前期日程)は学科試験(A)を行います。学科試験(A)は、1試験時間で「数学」「英語」「理科(化学、物理、生物)」の3教科5科目を実施します。「数学」「英語」は必須解答、「理科」は(化学、物理、生物)から1科目を選択して解答します。
  - ◎一般選抜試験(後期日程)では学科試験(B)を行います。学科試験(B)は、3試験時間区分で「数学」「英語」「理科(化学、物理、生物)」の3教科5科目を実施します。「数学」「英語」は必須解答、「理科」は(化学、物理、生物)から2科目を選択して解答します(24年度実施の前期日程試験と同じ実施方法です)
  - ◎全ての試験区分で面接試験を行います。面接試験の結果、医師及び医学研究者となるための適性を著しく欠くと判断された場合は、大学入試センター試験、個別学力検査の成績にかかわらず不合格とします。
- 入学試験実施に関する具体的内容は、平成24年7月に「選抜要項」として公表します。

# オープンキャンパス2012を開催します!

## ●医学科 8月4日(土) ●看護学科 8月5日(日)

今年も恒例のオープンキャンパスを開催します。日程は、医学科は8月4日(土)、看護学科は8月5日(日)です。

毎年多くの方が参加され、好評をいただいております。今年も主に受験生や高校生を対象としますが、どなたでも参加することができます。

また、実施にあたりまして関係の皆様のご協力をお願いします。

【日時】 医 学 科 8月4日(土) 13:00~17:00  
看護学科 8月5日(日) 13:00~17:00

【場所】 奈良県立医科大学 大講堂等

【対象】 受験生、高校生、保護者、教員、その他どなたでも参加できます

【内容】 ・学長講演

吉岡 章 学長 『医師・看護師をめざす諸君へ』

・学科紹介 ・模擬ミニ講義

4日 第一解剖学 西 真弓 教授

『顕微鏡で見る生きている細胞の世界』

5日 成人看護学 石澤 美保子 教授

『看護における皮膚管理ー褥瘡じよくそうと失禁しっせんー』

・在校生、卒業生からのメッセージ ・施設見学(※今年から事前申込が必要となります)

・相談コーナー



### 学生ボランティア募集中

オープンキャンパスには多数の方の参加が見込まれますので、当日の受付、施設見学、個別相談等のお手伝いをしてもらえる在校生を募集しています。ボランティアの受付は教育支援課厚生・入試係で行っていますので、ご協力をお願いします。

## 平成25年度 大学院入試日程

### 大学院医学研究科(博士課程)

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
地域医療・健康医学 専攻	7	第一次募集 平成24年9月24日 (月)~9月28日(金)	第一次募集 10月15日(月)	第一次募集 11月13日(火)
生体情報・病態制御 医学専攻	13	第二次募集 平成25年1月15日 (火)~1月18日(金)	第二次募集 2月4日(月)	第二次募集 3月6日(水)
生体分子・機能再建 医学専攻	20			

社会人の入学も可能です。

社会人とは医療・保健・福祉施設、教育研究機関、企業、官公庁等に勤務し、入学後もその職を有する者です。

### 大学院医学研究科(修士課程)

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
医科学専攻	5	第一次募集 平成24年9月3日 (月)~9月7日(金)	第一次募集 9月25日(火)	第一次募集 10月9日(火)
		第二次募集 平成25年1月28日 (月)~2月1日(金)	第二次募集 2月15日(金)	第二次募集 3月6日(水)

社会人の入学も可能です。

但し平成25年3月31日までに概ね1年以上の実務経験を有することが必要です。

### 大学院看護学研究科(修士課程)

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
看護学 看護学コース	5	第一次募集 平成24年7月23日 (月)~7月26日(木)	第一次募集 8月24日(金)	第一次募集 9月3日(月)
看護学 助産学実践コース	5	第二次募集 平成24年11月5日 (月)~11月8日(木)	第二次募集 12月4日(火)	第二次募集 12月11日(火)

募集人員に、社会人も含みます。

看護学コースについては、社会人の入学も可能です。

## 連載 クラブ紹介

本学の学生は、勉強だけをしているわけではありません。

多くの学生は、文化系13部、体育系24部のうちのいずれかのクラブに所属しています。そして、心身を鍛え、交友を深め、青春を謳歌しています。

さて第9回のクラブ紹介は、剣道部とギター部です。



## 剣道部

## 「百錬自得」

部員:38名

部長:吉田克法先生(泌尿器科透析部病院教授)

主将:菊川翔馬(三年)

活動内容:剣道

練習日:月、水、金曜日

午後5時～

こんにちは。私たち剣道部は市内の小学校と医大の体育館で週に三回、稽古しています。プレイヤー30名、マネージャー8名で大所帯ですが、礼に始まり礼に終わる、の教え通り礼儀正しく練習に励んでいます。部員もさることながら、OB、OGの先生、先輩方も数多く、直接稽古をつけていただいたり様々な形でご支援いただいております。また大阪府警より師範を招いており、今年で師範就任50周年を迎えるなど、大変伝統のあるクラブであると自負し、部員一同、誇りを持って稽古に励んでいます！

剣道はスポーツではなく武道であり、その主たる目的は人間形成です。そのため、私たちの目標は試合で勝つことはもちろんですが、自分に克つことであったり、昇段のために綺麗な剣道をすることであったりと様々です。将来医師や看護師として社会にでる私たちにとって、剣道を通じて人間形成ができ、部活動としてチームワーク力をつける事が出来るのは大変ありがたいことであり、この場をお借りして、OB、OGの方々、師範の先生、部員の親御さんに感謝申し上げます。堅苦しい印象を持たれたかもしれませんが部員同士で旅行にいたり楽しいイベント盛りだくさんです！！

良ければホームページも覗いてみてくださいね！！

<http://narmed-kendo.jimdo.com/>



## ギター部

## 「アットホームな雰囲気」

部員:25名

部長:高橋幸博先生(NICU教授)

主将:原田雅幸(四年)

活動内容:クラシックギターの合奏

練習日:火、木曜日

僕らギター部は医大の一般教育校舎や、秋の定期演奏会前には大講堂で練習しています。現役部員は29人で、個性的な面々があつまった賑やかなクラブです。医学科・看護学科共にとても仲良く活動していて、部の雰囲気も大切にしています。また、部活としての歴史も長く僕らがこうして日々ギターに精を出せるのも、部活動を通じて学生生活を充実したもののできているのもOB・OGの先輩方のご支援があってこそであり、その感謝の思いは筆舌に尽くし難いほどです。活動は主に秋の定期演奏会(今年度は2012年10月20日です)に向けての練習をしています。夏には合宿、定期演奏会前の一ヶ月には集中練習があり、だいたいここで一気に上達します。定期演奏会が終わるとオフ期間。約3ヶ月のオフとなります。オフ期間といってもいろいろとイベントはあったりして、年間ではBBQ・旅行・クリスマスパーティー・てんぷら・富士急などここには載せきれないほどのイベントをしています。部員は9割以上が初心者という状態から始めていますが、学年を重ねていくごとにみんなどんどん上手くなって、演奏も様になってきます。音楽系の部活は経験がないのでちょっとという感じだった人も今や立派に部員として活動してくれています。実際の練習では、先輩達の暖かいフォローもしっかりついて、非常に活動しやすい雰囲気になっています。文面では書ききれないことも多々ありますが、実際活動の方を見てもらえるとそのアットホームな雰囲気等魅力にあふれる部活になっていると思います。

最後になりましたが、僕らのギター部に少しでも興味を持たれた方は、ぜひ我が部のホームページをご覧ください！

<http://narainoguitarclub.web.fc2.com/>

連載

## 電子ジャーナルを使いこなそう! 第6回

プロクエスト社「プロクエスト(ProQuest)」

今回はプロクエスト社(以下プロ社)の「プロクエスト(ProQuest、以下PQ)」をご紹介します。

プロ社は、複数の出版社の電子ジャーナルを自社開発のプラットフォームで提供するアグリゲーターです。本学では、医学系パッケージ(Health and Medical Complete)及び看護系パッケージ(Nursing and Allied Health Source)を契約しており、合わせて1700誌あまりをご覧いただけます。ほかに学位論文や業界紙なども扱っているため、PubMedでは扱っていない資料を入手することもできます。ただし、プリント版をベースにしているため、オンライン版のみで提供されている文献はカバーされていないようです。また、「New England Journal of Medicine」は90日、「Lancet」は60日などメジャー誌は発行後一定期間たたないと掲載されません。このような掲載制限期間をエンバーゴ(embargo)と呼びます。

PQトップページ(<http://search.proquest.com/>)を開きますと、基本検索画面が表示されます(図1)。なぜか見出しには「医療 & 薬物」と「薬」が旧漢字になっていますが、見出しのすぐ下にメニューが並んでおり、「詳細」では詳細検索、「図形および表」では雑誌論文中の図表データ単位での検索ができ、「出版物」ではアルファベット順の電子ジャーナルタイトル一覧から選択することができます。また、画面右上には日本語ヘルプが用意されているところが便利な点です。

なお、PQは、ID/パスワードを取得すれば、学外からもご覧いただけます。誓約書の提出により個別に発行いたしますので、担当(鈴木、内線2293)までお問い合わせ下さい。



図1

## オープンキャンパスに当館も参加します!

例年、オープンキャンパスでは、図書館はグループ限定の見学コースに入っていましたが、今年は趣向を変えて、医学科、看護学科両日とも、見学コースの枠から離れてフリーで見学していただこうと思っています。

そのほか、イベントもいくつか企画中です。ご期待ください!

## Twitterを始めました!

図書館では、情報発信の手段として、学報のほかにニュースレターを毎月発行、そして「ないとブログ」をほぼ毎日更新しておりますが、きめ細かい情報発信を行うために6月からTwitterを始めました。

館内のパソコンやプリンターの利用状況、突発的な機器の故障、閲覧室の混雑状況など、当館に来られる際に役立つ情報をお届けいたします。

ユーザー名は、「@naito\_nmu」です。

# 平成23年度 公立大学法人奈良県立医科大学決算

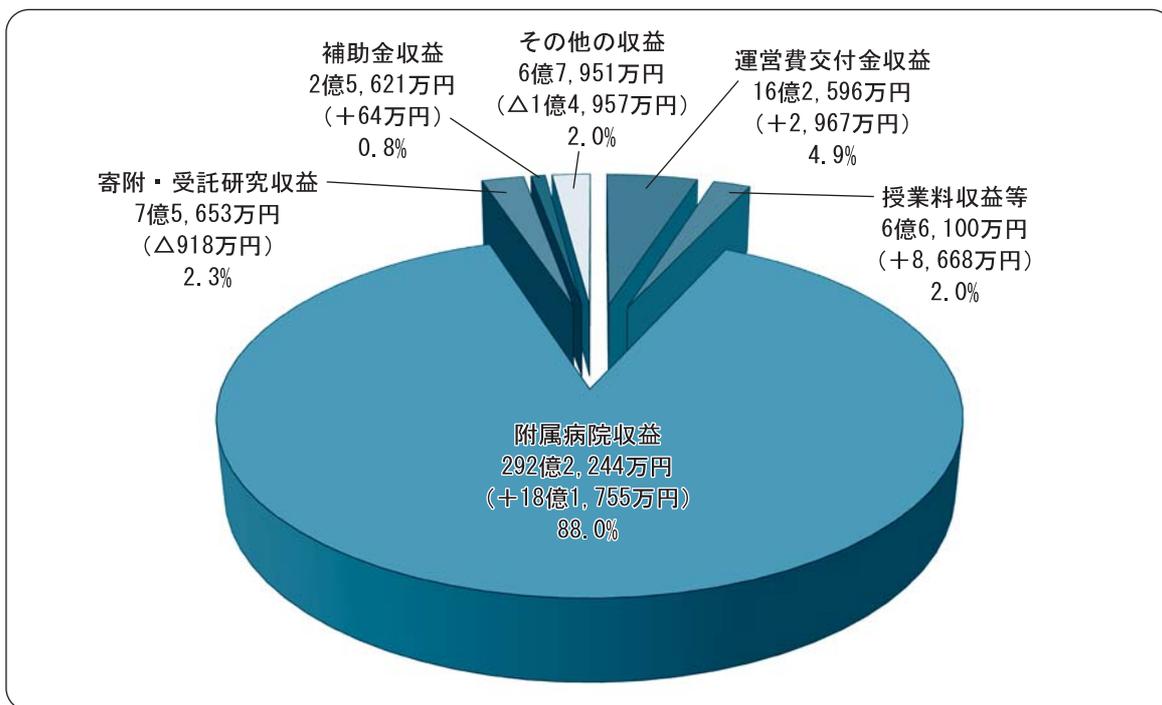
平成23年度決算 収益 332億 165万円 (+17億7,578万円)  
 費用 328億 7,914万円 (+19億7,223万円)

差引 3億 2,251万円の黒字 (H22 5億1,896万円の黒字)

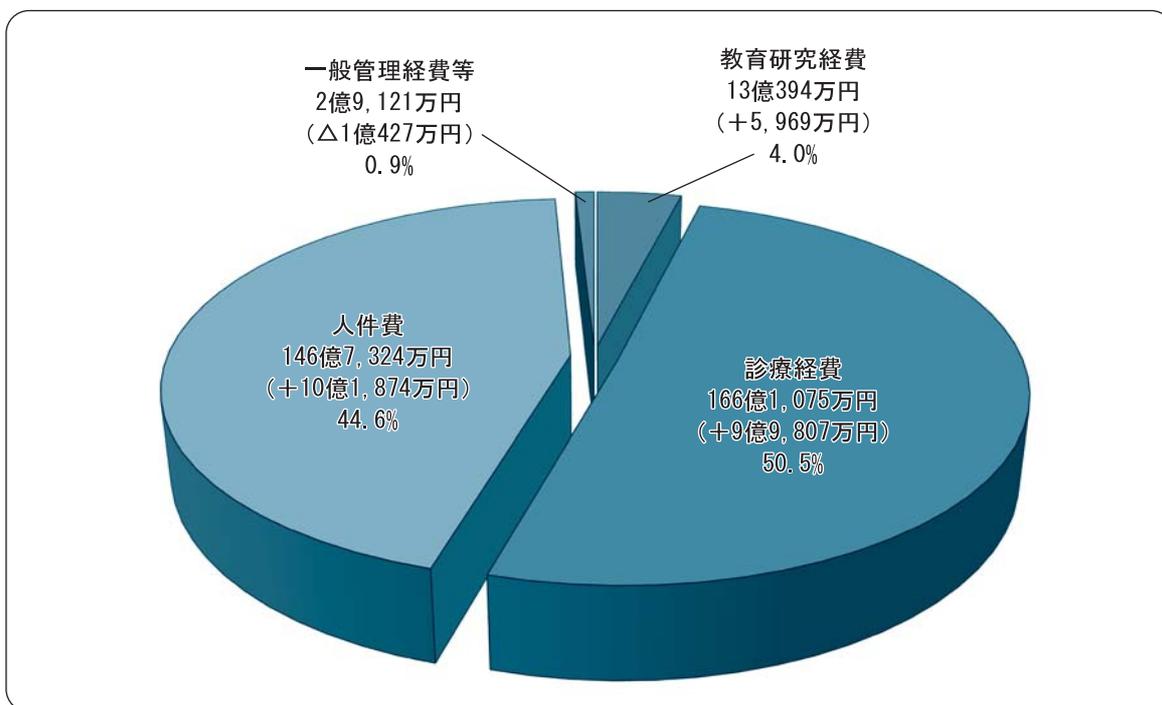
※平成22年度に引き続いて2年連続の黒字決算

## 収 益

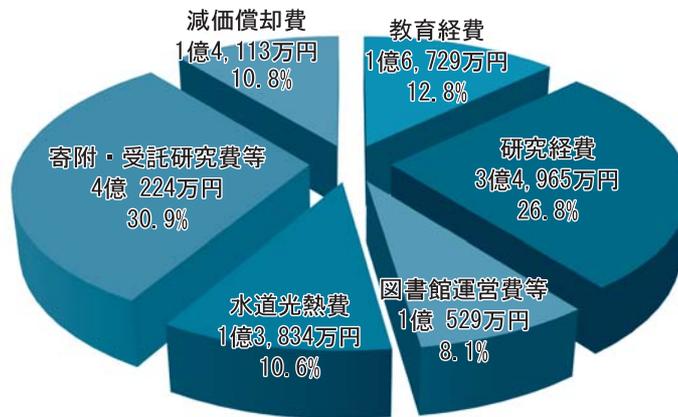
※ ( ) 内は前年との増減額



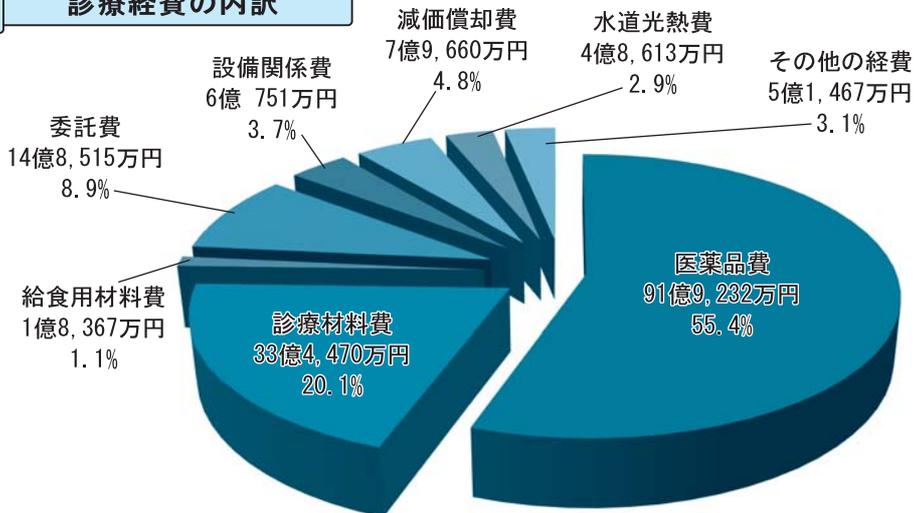
## 費 用



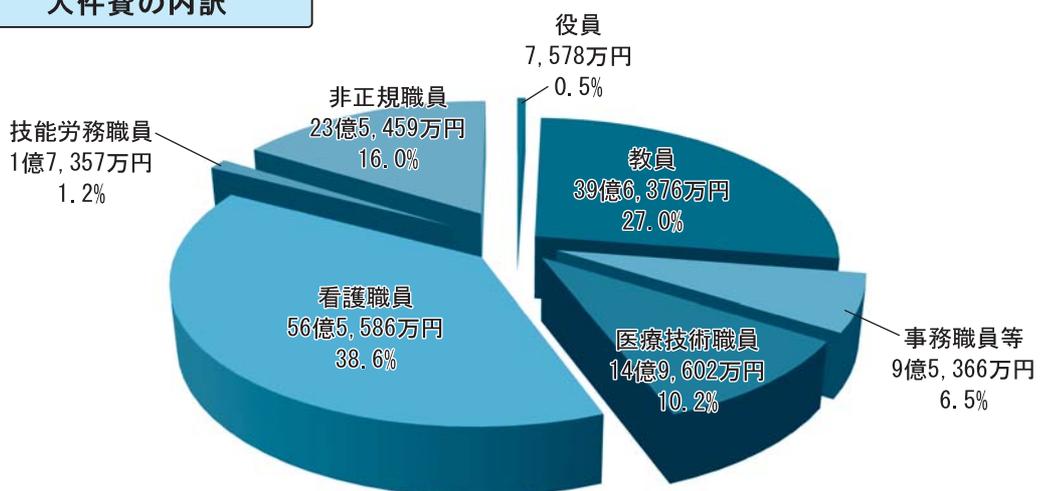
### 教育研究経費の内訳



### 診療経費の内訳



### 人件費の内訳



平成23年度は附属病院収益の増収などにより前年度に引き続き黒字となり、累積赤字は更に縮小しました。(累積赤字 22年度 12億8,319万円 → 23年度 9億6,069万円)

このように経営状況は改善しましたが、今後は病院新棟建設等により費用負担の増加が見込まれますので、皆さんには引き続き経費節減等でご協力をよろしくお願いいたします。

# 平成24年度 科学研究費補助金等の決定

平成24年度 科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金（文部科学省、独立行政法人日本学術振興会））が決定（研究活動スタート支援）等を除く）しました。

平成24年5月2日現在の状況は表のとおりです。今年度は基盤研究（A）（地域健康医学 車谷典男 教授）の採択がありました。

来年度も、積極的な申請をお願いします。

	採択件数	金額	
		直接経費	間接経費
H24年度	155 (+61.5%)	306,150千円 +50.6%	235,500千円 70,650千円
H23年度	145 (+51.0%)	286,820千円 +41.1%	220,700千円 66,120千円
H22年度	129 (+34.4%)	216,590千円 + 6.6%	170,570千円 46,020千円

※カッコ内はH18年度対比の数値

## 平成24年度 科学研究費助成事業(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)一覧

事業名	教室名	職名等	氏名	研究課題名	研究期間
基盤研究（A）	地域健康医学	教授	車谷 典男	地域在住高齢者のQOLと生活機能の低下要因に関する大規模コホート研究	24～26

事業名	教室名	職名等	氏名	研究課題名	研究期間
新学術領域研究	脳神経システム医科学	助教	高橋 弘雄	新生される嗅球介在ニューロンの移動を支える血管-神経相互作用の解析	23～24
基盤研究（B）	消化器・総合外科学	教授	中島 祥介	臓器受容および組織再生における血管新生機構の包括的解明と新規免疫制御法の開発	21～24
基盤研究（B）	病理病態学	教授	小西 登	前立腺癌幹細胞の効率的な新規獲得法の確立と癌幹細胞維持メカニズムの解明	22～24
基盤研究（B）	病原体・感染防御医学	教授	吉川 正英	E S細胞由来内耳有毛細胞の効率的誘導-細胞移植による聴覚機能回復にむけて-	22～24
基盤研究（B）	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教授	細井 裕司	超音波聴覚のメカニズムと最重度難聴者のための超音波補聴システムの実用化研究	22～24
基盤研究（B）	健康政策医学	教授	今村 知明	健康被害事件での社会反応の定量化と過剰反応抑制のためのリスクコミュニケーション研究	23～25
基盤研究（B）	第一解剖学	教授	西 真弓	幼少期の養育環境が脳の可塑性に影響を及ぼす分子基盤の解明	23～25
基盤研究（B）	循環器システム医科学	教授	中川 修	転写調節因子による心血管系の発生・機能制御機構	23～25
基盤研究（B）	放射線腫瘍医学	教授	長谷川 正俊	神経系腫瘍幹細胞の放射線抵抗性と分化に対する重粒子線照射の影響	23～25
基盤研究（B）	分子病理学	特任教授	高木 都	光る腸管神経の再生・新生機構の解明と制御	23～26
基盤研究（B）	産婦人科学	教授	小林 浩	鉄の酸化ストレスによる子宮内膜症のがん化機序の解明とモデル動物の樹立	23～25
基盤研究（C）	集中治療部	講師	河野 安宣	ラット前脳虚血モデルにおけるプロピルガラートの脳保護効果に関する研究	21～24
基盤研究（C）	看護学科 公衆衛生看護学	講師	入江 安子	知的発達障害児とその家族を支援するコミュニティレジリエンスの育成	21～24
基盤研究（C）	中央臨床検査部	講師	水野 麗子	超音波を用いた心筋のp53およびmTOR制御によるアンチサイクリン毒性の軽減	22～24
基盤研究（C）	第一生理学	講師	豊田ふみよ	有尾両生類における性フェロモンの作用機構の解明	22～24
基盤研究（C）	生物学	教授	永瀧 昭良	上皮細胞におけるカドヘリン・カテニン複合体局在化因子の探索	22～24
基盤研究（C）	第一生理学	教授	山下 勝幸	細胞内カルシウムストアの膜電位変化による細胞間電氣的結合	22～24
基盤研究（C）	放射線腫瘍医学	講師	玉本 哲郎	モバイル端末を用いた画像誘導放射線治療時代の遠隔放射線治療支援方法の確立	22～24
基盤研究（C）	病理病態学	助教	中谷 公彦	糖尿病での骨・カルシウム代謝異常におけるKlotho蛋白の意義の解明	22～24
基盤研究（C）	第一解剖学	講師	秦野 修	新たに見出した雌マウス副腎皮質が大量に産生するプロゲステロンの産生機序と役割	22～24
基盤研究（C）	輸血部	准教授	松本 雅則	造血幹細胞移植後の致死的合併症である血栓性微血管障害に対する新規治療法の開発	22～24
基盤研究（C）	総合医療学	病院教授	藤本 隆	シェーグレン症候群の唾液腺障害と再生機構の解明	22～24
基盤研究（C）	法医学	非常勤講師	石谷 昭子	H1A-Gの移植免疫における機能について一増する報告の検証-	22～24
基盤研究（C）	中央内視鏡・超音波部	病院教授	藤井 久男	モザブリドを利用した腸管再生・新生法	22～24
基盤研究（C）	胸部・心臓血管外科学	教授	谷口 繁樹	三次元培養心筋組織の作成：伸展刺激による細胞の配行と成熟、収縮力の増強	22～24
基盤研究（C）	整形外科科学	教授	田中 康仁	再生医療技術を用いた同種骨移植の再活性化に関する研究	22～25
基盤研究（C）	整形外科科学	助教	村田 景一	骨髄間葉系幹細胞を用いた血管柄付き自家骨置換型人工骨の開発	22～24
基盤研究（C）	麻酔科学	講師	井上 聡巳	全脳虚血に対するβブロッカーの脳保護に関する研究	22～25
基盤研究（C）	麻酔科学	准教授	川口 昌彦	脊髄虚血後のマイクログリア活性化制御による神経保護効果に関する検討	22～25
基盤研究（C）	第二生理学	助教	松吉ひろ子	共培養した膀胱上皮細胞と膀胱知覚神経細胞のクロストーク解析	22～24
基盤研究（C）	産学官連携推進センター	特任教授	平尾 佳彦	睡眠障害は夜間頻尿の原因になるか？：簡易脳波睡眠診断を用いた検討	22～24
基盤研究（C）	産婦人科学	講師	佐道 俊幸	大豆蛋白を用いた早産予防薬の開発	22～24
基盤研究（C）	産婦人科学	助教	川口 龍二	プロテオーム解析による子宮内膜症からの卵巣癌発生機序の解明	22～24
基盤研究（C）	産婦人科学	助教	吉田 昭三	酸化ストレスをターゲットにした卵巣明細胞癌の治療戦略	22～24
基盤研究（C）	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	准教授	山中 敏彰	最重度平衡障害に対する感覚代行治療-実用化に向けた効果メカニズムの解明-	22～24
基盤研究（C）	口腔外科学	講師	川上 哲司	関節滑膜細胞におよぼす伸展ストレスの影響；酸化ストレスと遺伝子発現の誘導	22～24
基盤研究（C）	看護学科 基礎看護学	准教授	宮島 多咲子	Miyajima式腹部圧迫法の臨床応用-便秘患者の安全性と有効性の評価-	22～24
基盤研究（C）	看護学科 成人看護学	教授	石澤 美保子	クリティカルケア領域における特徴的な皮膚障害の発生要因およびケア内容の検証	22～24
基盤研究（C）	第二解剖学	准教授	辰巳 晃子	視床下核におけるグリア細胞の機能解析-パーキンソン病新規治療法の開発を目指して-	23～25
基盤研究（C）	保健体育	准教授	石指 宏通	高齢者における血栓形成関連因子の日内・季節変動の解明	23～25
基盤研究（C）	健康政策医学	准教授	赤羽 学	黄砂による日常症状に見られる健康被害に関する広域調査研究	23～25
基盤研究（C）	R1実験施設	研究教授	森 俊雄	エストロゲン補充療法誘発4-OH E N D N A付加体の難修復性とホットスポット解析	23～25
基盤研究（C）	数学	教授	藤本 圭男	非同型な自己正則写像を持つコンパクト複素多様体の研究	23～25
基盤研究（C）	第二解剖学	教授	和申 明生	神経再生を阻害する糖鎖修飾メカニズムの解析と人為制御	23～25

基礎研究 (C)	薬理学	教授	吉栖 正典	糖尿病性微小血管障害でのc-SrcとMAPキナーゼの役割解明と分子創薬	23~25
基礎研究 (C)	分子病理学	研究員	大森 斉	大腸癌肝転移を促進する骨髄間葉系幹細胞を標的とする治療	23~25
基礎研究 (C)	病理病態学	講師	島田 啓司	膀胱尿路上皮癌におけるDNA修復酵素hABHファミリーの分子病理学的解析	23~25
基礎研究 (C)	細菌学	教授	喜多 英二	受容体 (Gb3) 非発現細胞に対し志賀毒素はLDL受容体依存性に毒性を発現する	23~25
基礎研究 (C)	健康政策医学	助教	小川 俊夫	自動体外式除細動器 (AED) の経済分析に関する研究	23~25
基礎研究 (C)	第三内科学	講師	吉治 仁志	慢性肝疾患進展制御法の確立: 効果予測に基づく個別化医療	23~25
基礎研究 (C)	第三内科学	教授	福井 博	エンドトキシン・自然免疫系を介する腸肝相の解明	23~25
基礎研究 (C)	医療安全推進室	病院教授	植村 正人	重症肝障害におけるADAMTS13の体内存在様式と制御機構	23~25
基礎研究 (C)	第二内科学	講師	友田 恒一	肺動脈断裂の機序解明への新たなアプローチ: 加齢による肺の力学機能低下を調べる	23~25
基礎研究 (C)	第二内科学	教授	木村 弘	呼吸不全、肥満低換気症候群における急性増悪は低酸素化学感受性の低下が関与する	23~26
基礎研究 (C)	輸血部	教授	藤村 吉博	妊娠中に特な後天性・血栓性微小血管障害症の分子病態とその制御機構解析	23~25
基礎研究 (C)	NICU	教授	高橋 幸博	トロンボジュリンによる重症新生児仮死治療の基礎的研究	23~25
基礎研究 (C)	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	GVHDを病態モデルとして利用したDHSにおけるHHV-6再活性化機序の解明	23~25
基礎研究 (C)	皮膚科学	准教授	小林 信彦	薬剤によるcAMP濃度上昇、CREB活性化と皮膚および神経系細胞のDNA修復亢進	23~25
基礎研究 (C)	中央放射線部	准教授	田岡 俊昭	拡散テンソル線維路解析とサポートベクトルマシンによるアルツハイマー病の早期診断	23~25
基礎研究 (C)	第二生理学	教務職員	三澤 裕美	ES腸管を利用した選択的分化法の確立	23~25
基礎研究 (C)	胸部・心臓血管外科学	講師	吉川 義朗	カルバイン阻害剤による心保存後の虚血再灌流障害予防効果に関する研究	23~25
基礎研究 (C)	胸部・心臓血管外科学	助教	内藤 洋	独創的な組織工芸学技術を用いた人工気管作成の試み	23~25
基礎研究 (C)	整形外科	准教授	面川 庄平	再生医療技術を用いた四肢の拘縮性偽関節の治療に関する研究	23~25
基礎研究 (C)	集中治療部	助教	阿部 龍一	開頭手術における運動誘発電位モニタリングに関する検討	23~26
基礎研究 (C)	産婦人科学	助教	古川 直人	発現タンパクの機能制御に基づいた婦人がんの分子標的治療戦略	23~25
基礎研究 (C)	産婦人科学	准教授	大井 豪一	羊水塞栓症の致死的原因における胎便の役割を解明する	23~25
基礎研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	太田 一郎	頭頸部癌の浸潤・転移におけるEMTによる癌幹細胞活性化機構の解明	23~25
基礎研究 (C)	口腔外科学	研究員	村上 和宏	早期荷重インプラントにおけるオッセオインテグレーション獲得のための微小動揺の閾値	23~25
基礎研究 (C)	分子病理学	講師	笹平 智則	新規MIA gene familyによる口腔癌の血管新生・リンパ管新生機構の解明	23~25
基礎研究 (C)	看護学科 母性看護学	准教授	中西 伸子	更年期女性の健康増進に向けた行動変容を促す健康貯金ノートを用いた介入プログラム	23~25
基礎研究 (C)	看護学科 公衆衛生看護学	講師	坂東 春美	幼稚園児の家庭内受動喫煙状況と家族の意識-尿中コチニン測定と質問紙調査から-	23~25
基礎研究 (C)	脳神経システム医学	助教	高橋 弘雄	嗅球の神経回路新生を支える血管-神経相互作用の解析	24~26
基礎研究 (C)	看護学科 臨床病態医学	教授	濱田 薫	妊娠中の大気汚染曝露が次世代アレルギー疾患発症におよぼす環境影響評価と制御機構	24~26
基礎研究 (C)	看護学科 哲学	講師	池辺 寧	ハイデガーにおけるエートス論の展開と医学哲学への応用についての研究	24~26
基礎研究 (C)	分子病理学	研究員	藤井 澄	ヒストンリジン残基修飾による新たなエピジェネティクスの研究	24~26
基礎研究 (C)	地域医療学	准教授	大西 文二	人口構造および医療介護資源等の社会的要因が地域の健康に与える影響に関する研究	24~26
基礎研究 (C)	第二内科学	准教授	吉川 雅則	慢性閉塞性肺疾患に対する新規栄養療法の開発: 進行抑制から発症予防までをめぐって	24~26
基礎研究 (C)	第二内科学	助教	山本 佳史	慢性閉塞性肺疾患・表現型規定因子の探求-一日比較研究からの発信	24~26
基礎研究 (C)	小児科学	准教授	野上 恵嗣	第VIII因子活性化・不活性化機構の解明と新規凝固・抗凝固薬への応用に関する基礎的研究	24~26
基礎研究 (C)	血栓制御医学	講師	松井 英人	凝固第VIII因子抗体に対する自己血管内皮前駆細胞移植による新規免疫寛容導入療法の確立	24~26
基礎研究 (C)	小児科学	助教	荻原 建一	第V因子の抗凝固機能と小児血栓性疾患との関連についての基礎的研究	24~26
基礎研究 (C)	病原体・感染防御医学	講師	王寺 幸輝	In vitro発モシステムを用いた発モ現象の解明とWntシグナルの役割について	24~26
基礎研究 (C)	皮膚科学	助教	宮川 史	GVHDモデルマウスにおける細胞障害性T細胞を制御する転写因子の同定	24~26
基礎研究 (C)	精神医学	教授	岸本 年史	統合失調症における補体制御因子機能とシナプスブルーニング機構解析	24~26
基礎研究 (C)	精神医学	講師	安野 史彦	脳梗塞後うつ病に対する客観的指標の確立	24~26
基礎研究 (C)	精神医学	研究員	森川 将行	主観的認知障害発症へのメタボリック症候群の影響に関する研究-高齢者コホート研究	24~26
基礎研究 (C)	放射線医学	助教	田中 利洋	進行肺癌に対するIVR技術を駆使した新規治療法の開発	24~26
基礎研究 (C)	細菌学	助教	王寺典子(下嶋典子)	HLA-Fによる免疫抑制法-制御性T細胞を100%残すアロ反応性細胞除去法の開発	24~26
基礎研究 (C)	消化器・総合外科学	准教授	庄 雅之	消化器癌における腫瘍特異的メモリー細胞能動的誘導法の開発	24~26
基礎研究 (C)	腫瘍センター	研究員	中村 信治	エリスロポエチンの炎症性腸疾患に対する新規治療の可能性	24~26
基礎研究 (C)	第二解剖学	助教	奥田 洋明	新規細胞外マトリックスDACSのアストロサイトおよび神経細胞における機能解析	24~26
基礎研究 (C)	整形外科	研究員	藤岡 保昌	骨腫瘍に対する患肢温存を目的とした細胞活性を有した液体窒素処理骨移植法の開発	24~27
基礎研究 (C)	整形外科	講師	城戸 顕	担がん患者の骨微小環境の解析と間葉系幹細胞の病態への動的関与	24~26
基礎研究 (C)	整形外科	講師	熊井 司	腱・靭帯付着部に対する神経要素の動態とヒアルロン酸の治療効果に関する研究	24~26
基礎研究 (C)	泌尿器科学	講師	平山 暁秀	地域高齢者の夜間頻尿が睡眠に及ぼす影響に関する研究	24~26
基礎研究 (C)	泌尿器科学	研究員	石橋 道男	多発性嚢胞腎の細胞外マトリックス接着応答とエピジェネティクス修飾による治療法の研究	24~26
基礎研究 (C)	産婦人科学	助教	重富 洋志	卵巣明細胞癌におけるDNAチェックポイント機構制御の解明と新規治療法の構築	24~26
基礎研究 (C)	産婦人科学	助教	金山 清二	卵巣明細胞癌の抗薬剤耐性克服による新規治療法の開発	24~26
基礎研究 (C)	眼科学	教授	緒方奈保子	高齢者の視機能と眼疾患における全身因子および色素上皮由来因子の関与	24~26
基礎研究 (C)	眼科学	准教授	松浦 豊明	マイクロレンズフィルムの屈折・調節の評価	24~26
基礎研究 (C)	消化器・総合外科学	准教授	金廣 裕道	組織工学と多能性幹細胞の腸管分化誘導技術を融合した新しい腸管移植法の開発	24~26
基礎研究 (C)	総合医療学	准教授	西尾 健治	敗血症に対するADAMTS13の効果	24~26
基礎研究 (C)	口腔外科学	研究員	杉浦 勉	即時・早期荷重インプラントの周囲骨の治癒にオーバーロードが及ぼす影響	24~26
基礎研究 (C)	口腔外科学	准教授	山本 一彦	マイクロRNAの制御を介した新たな口腔癌治療法の開発	24~26
基礎研究 (C)	口腔外科学	学内講師	川上 正良	上顎の形成過程におけるWntシグナリングの役割	24~26
基礎研究 (C)	看護学科 母性看護学	講師	泉川 孝子	看護職におけるDV被害者の早期発見及び予防のための教育プログラムの開発	24~26
基礎研究 (C)	看護学科 公衆衛生看護学	講師	奥田 真紀子	養育支援訪問事業における支援選択の指標開発-ニーズとアウトカムに着目して-	24~26
挑戦的萌芽研究	看護学科 成人看護学	講師	堀江 尚子	トワイライトホープレスの孤独死の改善を目指したアクションリサーチ	23~25
挑戦的萌芽研究	生化学	教授	高澤 伸	ブドウ糖によるインスリンの翻訳調節機構	23~26
挑戦的萌芽研究	分子病理学	教授	國安 弘基	幹細胞特異的塩基性アミノ酸リシンの網羅的解析と治療への応用	23~24
挑戦的萌芽研究	細菌学	講師	水野 文子	サルモネラ胃腸炎後脳症発症マウスモデルの作製	23~25
挑戦的萌芽研究	循環器システム医学	教授	中川 修	転写因子機能メカニズムの汎用解析システムの創出	23~24

挑戦の萌芽研究	放射線腫瘍医学	特任教授	大西 武雄	放射線が誘導する生存シグナル抑制機構の解明	23~24
挑戦の萌芽研究	脳神経システム医科学	教授	坪井 昭夫	嗅覚における新規な油シグナルの分子機構	24~25
挑戦の萌芽研究	分子病理学	特任教授	高木 都	生きたままの腸管神経を覗く	24~25
挑戦の萌芽研究	第一生理学	講師	和田 佳郎	「耳石器の特性」を応用した平衡障害リハビリテーション装置の開発	24~26
挑戦の萌芽研究	動物実験施設	准教授	久保 薫	消化管免疫による閾値リウマチ治療へのアプローチ	24
挑戦の萌芽研究	組換えDNA実験施設	准教授	杉浦 重樹	損傷認識を人為的に促進し紫外線DNA損傷修復を飛躍的に高める手法の開発	24~25
挑戦の萌芽研究	皮膚科学	特任教授	大崎 茂芳	繊維集合体における隙間のないユニークなバックング構造化の研究	24~26
挑戦の萌芽研究	産婦人科学	助教	常見 泰平	子宮頸管粘液を用いた新規妊娠高血圧症候群予知マーカーの開発	24~26
挑戦の萌芽研究	口腔外科学	教授	桐田 忠昭	口腔がんにおける遺伝子修復機構を標的とした抗がん剤増感の研究	24~25
若手研究(B)	地域健康医学	講師	岡本 希	認知機能の非遺伝的危険因子の検討と健康関連QOLへの影響に関する疫学的研究	22~25
若手研究(B)	地域健康医学	助教	佐伯 圭吾	血圧モニタリングサージと住宅温熱環境に関する横断研究	22~24
若手研究(B)	神経内科学	講師	杉江 和馬	自己食空胞性ミオパチーの臨床病態解析とオートファジー分子機構の解明	22~24
若手研究(B)	放射線腫瘍医学	助教	浅川 勇雄	画像誘導放射線治療および適応放射線治療における機能画像応用の検討	22~24
若手研究(B)	脳神経システム医科学	助教	吉原 誠一	成体新生嗅球介在ニューロンの神経活動依存的発達機構の解析	23~24
若手研究(B)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	研究員	松井 淑恵	時系列の聴覚表象に頭傾性を与える知覚属性間の交互作用に関する心理物理的研究	23~24
若手研究(B)	化学	助教	松平 崇	クモの糸の紫外線による特異的劣化機構の解明研究	23~24
若手研究(B)	循環器システム医科学	助教	坂部 正英	心臓形態形成における選択的細胞分化誘導とそれに関わる不均一シグナル伝達機構の解明	23~24
若手研究(B)	地域健康医学	助教	富岡 公子	芳香族アミン曝露作業者の発癌リスクに関する歴史的コホート研究	23~24
若手研究(B)	法医学	助教	工藤 利彩	アルコールに起因する心血管イベントに対する新たな指標としてのTRPチャネルの役割	23~24
若手研究(B)	循環器システム医科学	助教	林 寿寿	細胞移植による血管新生・組織再生における転写調節機構の研究	23~24
若手研究(B)	精神医学	助教	鳥塚 通弘	人工多能性幹細胞(iPS細胞)を用いた培養系精神疾患モデルの確立	23~24
若手研究(B)	第一内科学	助教	岡山 悟志	心臓MRIによるミトコンドリア心筋症の病態解明	23~25
若手研究(B)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	山下 哲範	骨導超音波補聴器の実用化に向けた語音聴力の検討	23~25
若手研究(B)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	西村 忠己	軟骨伝導を用いた新しい補聴器の開発	23~25
若手研究(B)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	清水 直樹	視運動性眼球運動に関する神経機構の解明—遺伝子工学的アプローチ—	23~25
若手研究(B)	口腔外科学	助教	山川 延宏	口腔がんにおけるmicroRNAの抗がん剤抵抗性への関与の検討	23~24
若手研究(B)	口腔外科学	研究員	上田 順宏	Trksを標的とした口腔癌の抗血管新生・リンパ管新生療法法の試み	23~24
若手研究(B)	口腔外科学	研究員	玉置 盛浩	口腔がんに対するMICA遺伝子に関連した新規ペプチドワクチンの同定	23~24
若手研究(B)	住居医学 7/1付地域健康医学特任助教	助教	大林 賢史	メラトニン関連サーカディアンリズム変動に対する光曝露およびADMAの影響	24~26
若手研究(B)	R1実験施設	研究員	岩本 顕聡	色素性乾皮症A群患者の神経障害に及ぼす酸化的DNA損傷サイクロプリンの役割	24~26
若手研究(B)	小児科学	助教	榊原 崇文	小児難治性てんかんにおける脳形成異常発生病態解明のための生物化学的研究	24~26
若手研究(B)	精神医学	助教	深見 伸一	時間的・空間的遺伝子発現システムと環境要因操作による統合失調症モデルマウスの開発	24~25
若手研究(B)	放射線医学	助教	西尾福 英之	MRIの分子画像を用いた肝腫瘍に対する分子標的治療薬の早期治療効果診断	24~25
若手研究(B)	消化器・総合外科学	研究員	右田 和寛	新たなT細胞不活化経路を標的とした癌治療法の臨床導入を目的とした研究	24~25
若手研究(B)	消化器・総合外科学	助教	赤堀 宇広	膵臓におけるHMGb-1の役割解明と新規標的治療の開発	24~25
若手研究(B)	消化器・総合外科学	研究員	北東 大督	肝細胞癌のT細胞不活化経路を標的とした癌治療法の臨床導入を目的とした研究	24~25
若手研究(B)	脳神経外科学	助教	竹島 靖浩	内在性神経幹細胞を利用した脳静脈虚血治療の研究	24~25
若手研究(B)	麻酔科学	助教	瓦口 至孝	オピオイドが癌細胞の抗がん剤感受性を低下させるか?	24~25
若手研究(B)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	下倉 良太	新しい音伝導ルート(軟骨伝導)を用いた両耳装用補聴器の開発	24~26
若手研究(B)	口腔外科学	研究員	梶原 淳久	DNA修復経路を標的とした口腔癌腫熱細胞死の基礎的研究	24~25
若手研究(B)	口腔外科学	研究員	柳生 貴裕	乳歯歯髓由来細胞による顎顎口蓋裂患者の顎裂治療	24~27
若手研究(B)	看護学科 成人看護学	助教	松浦 純平	我が国史上初の術後せん妄を早期発見するためのアセスメントスケールの開発	24~25

(研究推進課)

## 産学官連携だより

### ②研究成果の何が特許になるのか?

前回は、大学が研究成果を特許として権利化することの意義について述べさせていただきました。今回は、研究成果のなにが特許として権利化の対象となるのかについて述べさせていただきます。

特許権は図のように様々な知的財産権の一つとして分類されており、その保護の対象は“発明”です。

発明とは、特許法第2条で「自然法則を利用した技術的思想の創作のうち高度のもの」と定義されています。研究成果の中でこの定義に該当するものは発明になりますが、新規性や進歩性を有しない発明、産業上利用することができない発明は特許を受けることができません(特許法第29条)。産業上利用することができない発明には人間を手術、治療又は診断する方法も含まれ、**医療行為**は我が国では特許として権利化できません。つまり、医療従事者が医療行為に使用する医薬品、医療機器などは特許の対象になり、特許を使った商品として市場に流通しますが、病院・診療所における患者さんに対する診療は医療行為であって特許の対象にはならないのです。米国では医療行為も特許が認められていて、この点については我が国でも特許として認めようとの意見もあり議論されているところです。現時点では、画期的な手術方法等を医師が開発しても、日本では医療行為として認

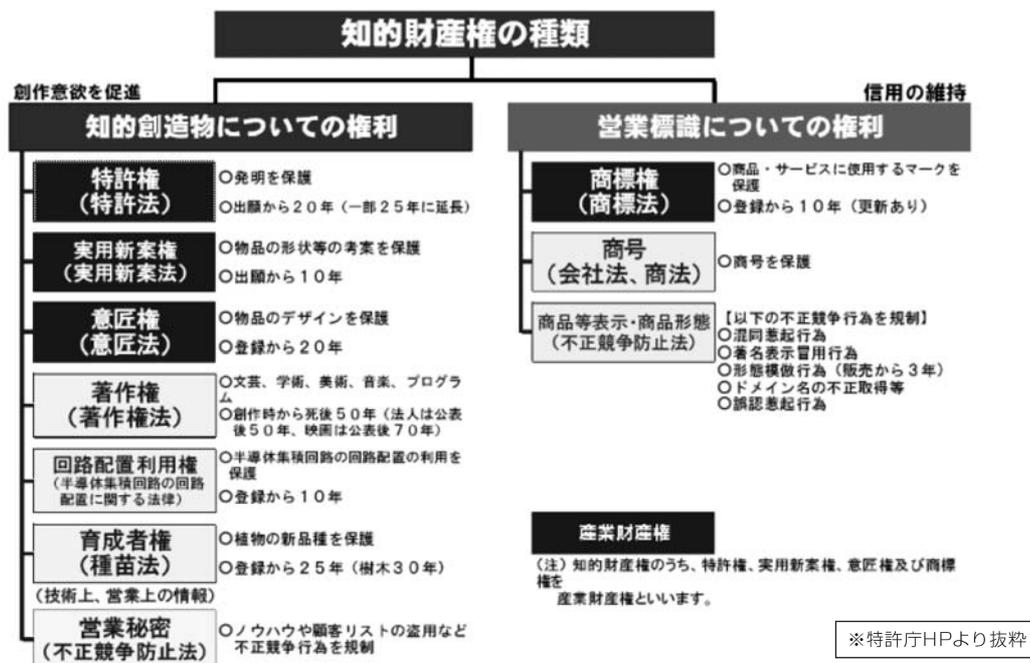
可・普及すれば、すべての医師がすべての患者に行えます。しかし、米国では特許化されるとライセンスを受けない限りその手術方法等を行うことができなくなります。日本では医療を公平に受けることができる点に重きを置き、米国では開発したパイオニアの権利を保護し、そのインセンティブにより医療の発達を促して恩恵に授かることに重きを置いているといえます。(特許権は永遠の権利ではなく日本、米国ともに原則として出願日から20年間で存続期間です。それ以降は誰でも自由に実施できます。)

かの有名なPS細胞の特許出願を具体例として上げさせていただきますと、実際の特許権(特許請求の範囲)は、「体細胞から誘導多能性幹細胞を製造する方法であって、下記の4種類の遺伝子: Oct3/4、Klf4、c-Myc、及びSox2を体細胞に導入する工程を含む方法」と記載されていますが、出願人がiPS細胞はヒトの再生医療への応用が期待できると考え、例えば「体細胞から誘導多能性幹細胞を製造し移植のためのヒトの組織を再生する方法であって、下記の4種類の遺伝子: Oct3/4、Klf4、c-Myc、及びSox2を体細胞に導入する工程を含む方法」と記載してしまうと特許庁から医療行為の方法であって特許に該当しないとして拒絶される可能性が高くなります。バイオの分野では、権利範囲が医療行為に該当しないように特許請求の範囲を記載し、医療行為以外の部分(体細胞から誘導多能性幹細胞を製造する方法)で権利化を目指すという特許法上のテクニックが必要で、新規性や進歩性の他に産業上の利用可能性が重要な要素であるといえます。

研究者の方々は、病気を治療するための研究で特許をとって儲けようとしているわけではなく、そのような行為は慎むべきとお考えのことと思います。しかし、研究から生まれた成果を医薬品、医療機器、診断薬、診断機器、抗体等の特許権として取得すれば、企業との共同研究開発といった連携や競争的資金の獲得につながり、やがて研究成果の実用化という形で実を結び、実際の医療現場で人々の治療に役立つこととなります。これは、本学の理念にも合致し、「世の中の役に立ちたい」という皆さんの夢を実現する方法の一つだと産学官連携推進センターでは考えて活動しています。

研究者の皆さんによる発明相談をお待ちしています。

(連絡先: 産学官連携推進センター 大野特任教授(内線2481)又は、事務局 担当: 米坂、井村(内線2552))



## 「低カロリー、低GI菓子」の共同開発

平成23年8月から本学附属病院と近鉄大和八木駅前の「やさい菓子工房cocoai」(<http://cocoai-nara.com/>)による「低カロリー、低GI菓子共同開発プロジェクト」がスタートしていましたが、そのプロジェクトにより開発された商品の販売が開始されました。栄養管理部 山口管理栄養士さんを中心とする本学のプロジェクトチームの指導の下、エネルギー制限が必要な患者さんが長期にわたる食事療法の息抜きになるようなお菓子を作り、闘病の支えになればとの考えで、「やさい菓子工房cocoai」との間で試行錯誤を重ね、販売にこぎつけました。

弘済団の売店でも販売しています。カロリーを気にしておられる方は是非、お試しください。

※商品のお問い合わせ: やさい菓子工房 cocoai 0744-23-5636

## 患者さん、学生、職員のために施設改修

### ～自動ドア設置、トイレ改修、エレベーター改修～

管理棟および医局棟のトイレ改修工事が完了しました。昨年9月から工事に着工し、今年5月に完了しました。乾式床にして、洋式トイレを設置し、壁・天井・衛生機器等の全面的な改装工事を行いました。

次に、基礎医学校舎のエレベーターをリニューアルしました。昇降時の衝撃を大幅に緩和することができ、乗り心地が大変良くなりました。外観は研究機関にふさわしい色合いを選択しました。

また、基礎医学校舎の北玄関のドアにつきましても自動ドアに変更しました。スムーズに通行できるようになり、学生さんや教員の方々にも大変好評です。

今後は、基礎医学校舎の3、4階のトイレ改修を学生さんの授業に影響の少ない夏休みに順次行っていく予定です。

附属病院外来の診察室等の入り口改修工事につきましても、昨年度に引き続き、優先順位が高く、かつ設置可能なところから、診察に支障を来さないように土日祝日で工事を行う予定です。事前調査、準備、工事について、今後ともご協力をお願いします。



トイレ改修工事(医局棟・管理棟)



エレベーターリニューアル工事(基礎医学校舎)



自動ドア化工事(基礎医学校舎)



スライドドア化工事(病棟)

(研究推進課)

## 入退室管理システム・指紋認証管理システムを更新しました

平成5年の総合研究棟開設時に設置され、近年では誤作動が起き、研究者のみなさまにご迷惑をお掛けしていましたが、入退室管理システムは3月に、指紋認証管理システム(RI実験施設)は5月に更新しました。

なお、総合研究棟の各施設の利用に際しては、それぞれの教育訓練を受講しないと「入退室カード」の発行が受けられません。詳細は、研究推進課研究推進係(2556)までお尋ねください。



入退室管理システム



指紋認証管理システム (RI貯蔵庫)

(研究推進課)

## 医療倫理講習会開催のごあんない

来る9月13日(木)に医療倫理講習会を開催します。

この講習会は、「臨床研究に関する倫理指針」に規定されている“研究者は、臨床研究の実施に先立ち、臨床研究に関する倫理その他臨床研究の実施に必要な知識についての講演その他必要な教育を受けなければならない。”の一環として行うものです。

なお、医の倫理委員会への審査申請においても、受講歴が必要となりますので、ご参加ください。

講師 群馬大学大学院医学系研究科 医学哲学・倫理学分野  
教授 服部 健司 先生

講演内容 未定

## 所属紹介

## C棟4階

## 泌尿器科・放射線治療・核医学科病棟

C棟4階は、泌尿器科・放射線治療・核医学科の病棟です。泌尿器科では前立腺癌・膀胱癌など周術期の患者さんが8割をしめ、前立腺癌に対する小線源療法も行っています。また、県内での腎移植術（生体・献腎）のほとんどが当病棟で行われています。そのため看護実践は悪性疾患の化学療法や緩和ケアなど多岐に及びます。放射線治療・核医学科は主に食道癌、肺癌、前立腺癌などの放射線治療や低位放射線治療（ノバルス）を目的に入院されます。周術期の患者さんには安全に安心して治療を受けていただけるよう、終末期を迎えられる患者さんには、症状マネジメントと残された時間の質を最大にできるよう医師、専門・認定看護師、他職種との連携を重ね、ひとりひとりのケースを大切に日々ケアを実践しています。

病床数は30床で、隣には透析部を併設しています。所属目標である「ひとりひとりがやりがいをもって、生き生きと働ける魅力ある病棟」を目指し、みな元気いっぱい日々のケアを実践しています。また勤務外で行う夏のレクリエーションやボーリング大会、患者さんとともに行うクリスマス会などのイベントも充実しています。



## B棟7階

## 消化器・内分泌代謝内科病棟

B棟7階は消化器・内分泌代謝内科病棟です。主な疾患は肝臓疾患・消化器疾患・糖尿病など慢性的な経過をたどる患者さんが多く、内視鏡治療・化学療法・放射線治療など地域の基幹病院として幅広い治療を行っています。当病棟では、急性期から慢性期、ターミナル期までじっくりと患者さんに関わることができ、高度で先進的な医療と思いやりのある看護を提供しています。

特に慢性疾患で再入院される患者さんが多いため、入院時から退院後の生活を見据えた教育支援を行っています。またターミナル・デス・カンファレンスを実施し、今後の看護に活かせるように日々努力しています。

患者さんの笑顔や「ありがとう」の一言が私たちの大きな力の源です。辛い検査や治療であってもB棟7階に入院してよかったと思っただけのよう患者さんの心に寄り添った看護を実践していきたいと思っています。



## B棟8階

## 耳鼻科・頭頸部外科／呼吸器血液内科／総合診療科3科混合病棟

B棟8階は、耳鼻科・頭頸部外科35床、呼吸器血液内科20床、総合診療科5床の3科混合病棟です。耳鼻科は頭頸部領域の悪性腫瘍が多く、手術療法や放射線・化学療法などが主な治療です。手術後の急性期の全身管理から咀嚼・嚥下障害のための栄養管理、回復期のリハビリテーションの援助などが必要です。また、外見上の変化を伴うケース、コミュニケーション障害、ターミナルケアなど精神的な看護も重要です。血液内科は、白血病・悪性リンパ腫など造血器組織の疾患等の患者さんが入院されます。20床のうち高度無菌治療室2床と無菌治療室16床を有し移植・化学療法を行っています。造血幹細胞移植に関わる看護師として、知識・技術の評価を行い安全で質の高い看護を提供できるよう自己研鑽にも取り組んでいます。

総合診療科は、主に患者さんの確定診断をする場合が多く、自己免疫疾患や悪性リンパ腫、不明熱、糖尿病のコントロールや様々な領域のターミナル患者さんも入院されます。緩和・精神ケア・リハビリなど専門チームとの連携を行い、患者さんに「寄り添う看護」を大切にしています。

私たちは、看護師として誇りを持ち、「生き生きと働ける職場づくり」「患者様と向き合った看護をしよう」と医師・他職種と協力・連携し、日々切磋琢磨しながら看護ケアに取り組んでいます。



# フッシュユな同僚からのメッセージ！

## 【看護師】



看護部 B棟5階 <sup>なか ね</sup> <sup>ひろたか</sup> 中根 啓貴さん

4月の入職後から早くも3カ月が経とうとしています。集合研修を終えB5病棟への配属後は、初めての仕事に不安ばかり感じていました。しかし、先輩方には毎日親身になって指導を頂き不安も少しずつ解消され、仕事にも慣れてきたと思います。

B5病棟は、脳神経外科で脳疾患や脊髄・神経疾患を患った患者さんに対し、手術や脳血管治療、化学療法・放射線治療など多くの治療が行われています。そのため術前・術後の急性期から、リハビリを行う回復期まで幅広い看護が必要です。

私自身、最初は回復期の患者さんを受け持たせて頂き、現在は術前・術後の患者さんも受け持たせて頂いています。自身の知識不足により至らない事が多いのですが、先輩方や医師の方々から毎日励ましの言葉や優しい声かけを頂いているので、毎日頑張ることができています。一日でも早く先輩方のように患者さんから信頼を得られる看護師になれるよう、これから日々努力していきたいと思っています。

## 【看護師】



看護部 B棟8階 <sup>おかだ</sup> <sup>あい</sup> 岡田 亜衣さん

今年度4月よりB棟8階呼吸器・血液内科に配属され、3カ月目に入りました。B棟8階は耳鼻咽喉科/血液内科/総合診療科の3科混合病棟です。病棟で働くようになってからは、知らないことばかりで戸惑うこともたくさんありましたが、先輩方が優しく声をかけて指導してくださるため安心して患者さんの看護に専念することができています。血液内科に入院されている患者さんは長期入院の方が多く、入職当初はコミュニケーションや信頼関係づくりに悩んだこともありました。ですが今では日々の関わりのなかで声かけを大事にし、患者さん一人一人と正面から向き合って信頼関係を築いていきたいと考えています。

また、治療後にもたいへん苦痛が続くため、身体的苦痛だけでなく患者さんの精神的苦痛にも気づき、支えていくことのできる看護師になりたいと思います。一年目は分らない事ばかりですが、日々学ぶチャンスがあると思うので、笑顔と学ぶ姿勢を忘れずにこれからも頑張っていきます。まだまだ迷惑かけますがどうぞよろしくお願い致します。

## 【看護師】



看護部 A棟5階 <sup>ちゅうじょう</sup> <sup>みすき</sup> 中條 瑞紀さん

4月より入職し、助産師として産科病棟で勤務しています。入職してから覚える事も多くわからないことばかりでしたが、先輩方からの温かい指導のお蔭で少しずつできることが増え、仕事にも慣れてきました。また、同期で入職した仲間も多く、互いに情報交換をしたり励まし合ったりしながら日々頑張っています。

奈良医大の産科は県内の総合周産期母子医療センターとしても機能しているため、他機関からの搬送も多く、ハイリスク例も少なくありません。そのような中で日々の学びも多い反面、自身の知識不足も痛感させられます。

まだまだ未熟で至らない点も多くありますが、少しでも早く先輩方のような助産師に近づけるよう、日々精進し頑張っていきたいと思っています。

## 【視能訓練士】



医療技術センター 医療技術第三係 <sup>しんち</sup> <sup>ひろき</sup> 新地 広季さん

今年の4月に、医療技術センター3係の視能訓練士として勤務させていただいております。

働き始めは、大学病院の忙しさや難治症例の多さ、検査機器の多さに圧倒されておりました。特に、小児や乳児の斜視や弱視の検査などは、以前いた病院ではそういった来院者が少なく、検査に戸惑っていましたが、先輩の方々から優しく丁寧に教えていただいたおかげで、今まで出来なかった検査が出来るようになってきたように思います。

これからも、先生をはじめ、先輩の方々に色々教えて頂きながら、技術や知識を向上させていき、信頼できる検査結果を出せるようになっていきたいと思っていますので、よろしくお願い致します。

## 【歯科技工士】



医療技術センター 医療技術第三係 <sup>しば</sup> <sup>まお</sup> 芝 真央さん

4月から医療技術センター3係で歯科技工士として勤務させていただいております。

この2カ月はあっという間でした。最初は業務の流れや内容など、覚えることがたくさんあり、緊張して、基本的な作業ですら失敗することが多々ありましたが、少しずつ落ち着いてきたように思います。まだまだ知らないことわからないことが多いのですが、上司の方々に指導していただき助けられながら、日々技工技術を磨いております。

口腔外科の歯科技工士の仕事内容を説明するのは難しいので気になる方がおられましたら、ぜひ一声おかけください。まだまだ未熟者ではございますが、頑張っていきたいと思っていますので、これから宜しくお願い致します。

今年、4月に大学職員として、新規採用された方からメッセージをいただきました。

初々しい私達の仲間です。みなさん、応援よろしくお祈りしま〜す。m(\_ \_)m

【事務】



病院管理課 用度係 <sup>かわた こうへい</sup>川田 耕平さん

今年度4月に入職し、病院管理課用度係に配属されました川田と申します。  
現在、係では検査用試薬や医療用ガスの調達、一部備品の購入などの業務を担当させて頂いております。  
勤務してからはや3ヶ月が経ちましたが、未だ手探りの部分が多く、職場の先輩方にはお忙しい中、非常にお世話になっています。  
実際に職員として勤務するまでは、奈良県立医科大学という組織に、これほど多くの方が関わっておられるということが想像も出来ませんでした。今は奈良県の中核病院としての重み、そしてそのような場で動かさせて頂いていることに対する責任をひしひしと感じております。  
現場の看護師の方や検査技師の皆様には、至らぬ身ゆえに多大なご迷惑をお掛けしておりますが、一日も早く一人前の職員となるべく努力して参りますので、どうか今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

【社会福祉士】



地域医療連携室 後方連携係 <sup>うえきた けいこ</sup>上北 恵子さん

地域医療連携室で社会福祉士（ソーシャルワーカー）として勤務しております。当室では退院調整・地域医療連携クリティカルパスの業務を担当しております。退院後も引き続き必要な医療を受け、状況に応じたサービスを利用し、地域の中で生活することができるよう患者さん・家族の多様なニーズを把握し、医療、福祉、行政などの機関との調整に励んでいます。  
当院は特定機能病院であり小児から高齢者まで、救急入院、難病、緩和ケアなど様々な患者さん・家族にお会いします。今後、多くの病棟と関わらせていただくとお祈りしますが、他職種のみな様と連携・協働し患者さん・家族がより安心できるようにチームの一員としてコーディネートできるように頑張っていきたいです。  
今後学ぶ姿勢を忘れず、「親切」・「丁寧」・「誠実」な姿勢を心がけ安心・安全な医療連携の提供ができるよう努めていきたいとお祈り致します。今後ともよろしくお願い致します。

【診療放射線技師】



中央放射線部 一般・救急撮影 <sup>なかの ともみ</sup>中野 知己さん

今年度の4月より中央放射線部で動かしてもらっている中野知己です。  
奈良の地は初めてで知り合いは一人もおらず、来た当初は不安な気持ちでいっぱいでしたが、先輩の皆さんに良くして頂いたり、楽しい同期の仲間もいてだんだん慣れてきたような気がしています。  
働きはじめから早くも2ヶ月が経ちましたが、まだまだ分からないことだらけで毎日必死に勉強しています。先輩のご指導は時に厳しく感じることもありますが、いつも丁寧に根気強く教えて下さり、とても感謝しております。いつか先輩の様な診療放射線技師になりたいです。  
皆さまにも病棟、手術部、ICUなどの撮影でお会いすることがあると思いますので、至らない点がありましたらご指導して下さいと幸いです。まだまだ未熟でご迷惑をお掛けすることが多々あると思いますがどうぞよろしくお願い致します。

【薬剤師】



薬剤部 外来・入院調剤 <sup>さかもと みほ</sup>坂本 実穂さん

現在、私は薬剤部で患者さんが安心して薬物治療が出来るよう処方された薬を調剤しています。薬剤部では調剤の他、薬の管理、情報提供及び病棟業務（薬剤管理指導業務）、チーム医療（ICT、NST等）など様々な業務が行われています。私が薬剤部に入りますと驚いたのは管理されている薬の豊富さで錠剤、水剤、散剤、注射薬など2200を超える種類の薬剤があることです。さらに、新しい薬も市場に多く出ると、日々勉強だと感じています。  
入職して早くも2ヶ月が経ちましたが、まだまだ未熟で多くの先輩方に迷惑をかけながら頑張っています。患者さんから信頼されることはもちろん、医療職の方々からも頼りにされる薬剤師になることが私の目標です。どうぞよろしくお願い致します。

【臨床検査技師】



中央臨床検査部 生化学 <sup>いずみ ゆかり</sup>和泉 有加里さん

今年4月に入職し、中央臨床検査部で勤務しております。  
現在は、生化学・免疫検査領域で血液や尿の検査を行っています。大学を卒業して、初めて臨床検査技師として現場で働き、まずは検体数の多さに驚きました。今は、その検査結果一つ一つを正確に出し、素早く病棟や外来に返すことに努めております。  
これから、中央臨床検査部の4つの領域をローテーションし、様々な検査に従事させていただく予定です。その中で自分の興味のある分野を見つけ、技術、知識とも高めていきたいとお祈りしています。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

# ☆学生と子どものふれあい☆～なかよし保育園～

現在9名の学生の皆さんが、日替わりでボランティアに来られ子ども達と交流しています。医師、小児科医を目指す学生の中に子ども達の事を知り、コミュニケーションを取りたいという目的で保育園に来られ、とっても熱心に保育補助のお手伝いして頂いています。

私たち保育士も学生の皆さんのお役に立てるよう保育士の視点ではありませんが支援していきたくておりますので、どうぞ「保育園の子ども達と交流してみたい、子どもってどんな感じかな？」と思われる方は、ぜひ一度見学に来て下さい。お待ちしております。

## ★保育士の声★

- ・ボランティアの皆さんが来て下さると子どもたちは喜び膝の上を取り合いする姿も見られる。
- ・なかよし保育園は女性保育士だけなので男性ボランティアの方が来て下さると特に3、4歳児の男児たちは喜び、ダイナミックな遊びや空手部に所属しておられるお兄さんに空手を教えて頂いたりとても喜んでいました。
- ・子どもの目線に立ち言葉がけや対応をして下さるので子どもたちも自然にボランティアの皆さんを受け入れているように感じる。

## ★学生さんより一言★

この度、なかよし保育園でボランティアをさせていただくことになりました。2週間に1回程しかまだ入れていないのですが、1時間ほど子ども達と遊んでいます。私が入らせていただいている時間帯は、様々な年齢の子ども達がいる時間帯で、一緒にテレビを観ながらお話ししています。そのような環境なので、子ども達の発育段階をじっくりみることができ、勉強させていただいています。同じ年齢でも、早生まれかそうでないかで体の大きさに差があり、子どもの成長の早さを実感しています。子どもが好きなので、今後も月に何回か入れていただこうと思いますので、よろしくお願いします。(医4年 北村亜耶)

参加させていただいて印象的だったのは、めいっぱい甘えられる環境づくりです。私の保育園の勝手なイメージは、保育園は教育の場で甘えられないイメージでしたが、なかよし保育園では、子ども達は保育士さんにめいっぱい甘えていて、とてもよい雰囲気です、お母さんが仕事をしていて寂しい気持ちを、しっかりサポートされているなと思いました。

機会があればまた参加させて頂きたいです。(医4年 亀田真理子)

わたしたちは、有志で集まった保育園ボランティアメンバーがそれぞれ時間のあるときに保育園で子ども達と遊んだり、お掃除をお手伝いさせていただいたりなど保育園のお手伝いをしています。この時期の子ども達は、一歳の違いで成長の差がとても大きいので、子ども達それぞれにあった接し方を学ぶ機会になっています。また、わたしたちも子ども達と接することで元気をいただいています。まだ、始まったばかりで手探りの状態ですが、有意義な時間となるようにしていきたいと思います。学生の間からそのような機会をもつことで、将来医師になったときに活かせるような経験を身につけたいと思います。よろしくお願いします。(医2年 本田彩)



定員を18名から60名へと大幅に増やし（H24は40名）、お子様を預けていただきやすくなりました。

入園または見学を希望される職員の方は、下記までお問い合わせください。

なかよし保育園 内線2296 総務課総務係 内線2206

4月に開設したホームページに新しいページが追加されました。

『アルバム』のページでは、様々な行事を通して園内の様子をご紹介します。

ぜひ、ご覧になってください。

URL <http://www.narmed-u.ac.jp/other/nakayoshi/index.html>

## なかよし保育園にAEDを寄附いただきました



この度、なかよし保育園保護者会の皆様より、「子ども達が安心、安全に活動出来るように」と、AED（自動体外式除細動器）をご寄附いただき、保育園に設置させていただきました。

ご報告とともに、保育園保護者会の皆様にご寄附に対し深く感謝申し上げます。

## 公開講座 『くらしと医学』開催のお知らせ

平成24年度前期公開講座『くらしと医学』を下記のとおり開催します。  
申込み・受講料共に不要ですので、皆様お誘い合わせの上、ぜひご聴講ください。

日 時：平成24年9月8日（土）13時～15時30分

場 所：奈良県橿原文化会館 大ホール（橿原市北八木町3-65-5）

プログラム：

整形外科学 教授 田中 康仁

「寝たきりにならないために ～整形外科からのアプローチ～」

臨床研修センター 准教授 赤井 靖宏

「健康・長寿の秘訣は腎臓にあり ～健康に生きる方法を伝授します～」

小児科学 教授 嶋 緑倫

「こどもの健康を守るために」

<http://www.naramed-u.ac.jp/info/openlecture.html>

## 日本生化学会近畿支部例会で

## 医学研究科大学院生が優秀発表賞を受賞!



本学医学研究科修士課程2年の宮崎尚也さんによる研究「嗅覚によって油を感知する機構の解明」が、第59回日本生化学会近畿支部例会において優秀発表賞を受賞。本学会は5月19日（土）に京都大学宇治キャンパスで開催され、京都大学、大阪大学をはじめとする近畿圏の大学から採択された62件の一般演題の中から、口頭発表とポスター発表の双方が審査されて選ばれました。宮崎さんは、生駒市内にある専門学校で理学療法学科の先生として働きながら、坪井昭夫教授・高橋弘雄助教（脳神経システム医科学）の指導の下、研究を続け、その努力が実られました。今回の受賞につながった大学院生による研究活動は決して特別なものではありません。宮崎さんはこれまで実験の経験が全くありませんでしたが、熱心に実験に取り組まれた結果、立派な成果を挙げられました。熱意と研究に興味のある方は、本学の修士課程に社会人として入学されてはいかがでしょうか？

## 第33回 日本造血細胞移植学会総会学術奨励賞 受賞

～第二内科 天野 逸人先生～



### 受賞者からひとこと

今回【臍帯血は免疫抑制剤早期減量が可能な移植ソースである】という発表で学術奨励賞を受賞させていただきました。臨床経験に基づく治験の発表での受賞でした。移植にはチーム医療が必要です。今回の受賞は移植チーム全体の力での受賞と考えております。これからもチーム一丸となり患者様のお役に立てれば幸いです。

## 平成24年度 看護功労賞知事表彰

～当院から2名の方が受賞されました。おめでとうございます。～



写真左から 上西和代師長（中央放射線部）  
竹川洋子（外来2階）

### 受賞者からひとこと

平成24年度の看護功労賞知事表彰を受賞させていただき、深く感謝いたします。

職場の上司や一緒に働いてきた同僚、今まで関わらせていただいた患者さんがいてこそこの受賞であり、感慨深い受賞となりました。

昨今日々変化する医療界で、看護を取り巻く環境は著しく様変わりしています。気持ちを新たに、変化の波に乗りながら、これからも患者さんの気持ちに寄り添い、人間としても成長をしながら、看護を続けていきたいと考えています。

これからも皆様のご指導、ご鞭撻よろしくお願いたします。

上西和代、竹川洋子

## 平成24年度 村上記念 学会認定・自己血輸血看護師奨励賞受賞

～看護部 島田 千和さん～



左から藤村教授（輸血部）、島田千和さん、  
大名看護部長

### 受賞者からひとこと

この度は、日本輸血・細胞治療学会より名誉ある賞をいただき光栄に存じます。

藤村教授をはじめ、これまでにご指導下さいました輸血部の皆様に心より感謝申し上げます。今回の受験による学習は自己血輸血のみならず輸血療法に関する知識も深めることが出来ました。今後も学会や研修会に参加し専門性の高い知識、技術の向上に努力したいと考えています。

# Report

承認された規程、委員会名簿等については、随時、ホームページにて公開しています。

学内ホームページURL（閲覧は学内のみ可能）

<http://top.naramed-u.ac.jp/> → 「規程・名簿タブ」

※は、公開ホームページに掲載

<http://www.naramed-u.ac.jp/aff/johokoukai/>

（総務課）

## 役員会及び教育研究審議会の報告

### 第1回 役員会（4月4日）

- 1 教育研究審議会案件について承認
  - (1) 教育研究審議会委員の選任について
  - (2) 教員の人事について
  - (3) 教授選考について
  - (4) 各種委員会委員の改選について報告
  - (5) 卒業生の進路等について報告
  - (6) 入学者の状況について報告
- 2 奈良県立医科大学情報システムの運用管理について

### 第1回 教育研究審議会（4月5日）

- 1 教授選考について承認
- 2 教員の人事について承認
- 3 奈良県立医科大学情報システムの運用管理体制等について承認
- 4 奈良県立医科大学研究医養成コース運営委員会規程の制定について承認
- 5 役員会の人事及び教育研究審議会委員の選任について報告
- 6 各種委員会委員の改選について報告
- 7 卒業生の進路等を報告
- 8 入学者の状況を報告
- 9 中長期計画推進委員会規程について

### 第2回 役員会（4月18日）

- 1 教育研究審議会案件について承認
  - (1) 化学教授候補者選考委員会について承認
  - (2) 住居医学講座の教員採用について承認
  - (3) 各種委員会委員の改選について承認
- 2 新棟の外壁色について報告
- 3 新棟整備の工期について報告
- 4 新棟建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告について報告

### 第3回 役員会（4月25日）

- 1 教育研究審議会案件について承認
  - (1) 麻酔科教授選考にかかる基本方針案について
  - (2) 特任助教の配置について
  - (3) 言語聴覚士の採用について
  - (4) 医学科入学試験委員会委員について
  - (5) 文部科学省科学研究費補助金の採択状況について報告

### 第2回 教育研究審議会（4月26日）

- 1 麻酔科教授選考にかかる基本方針案について承認
- 2 化学教授候補者選考委員会について承認
- 3 特任助教の配置について承認
- 4 住居医学講座の教員採用について承認
- 5 平成23年度 業務実績報告書（案）について報告
- 6 各種委員会委員の改選等について承認
- 7 臨床教授等の選考について承認
- 8 文部科学省科学研究費補助金の採択状況について報告

### 第4回 役員会（5月2日）

- 1 なかよし保育園の園児検診等に係る対応について承認
- 2 地域医療支援特任教員の給与に関する要項（案）について承認
- 3 平成23年度 業務実績報告書（案）について

### 第3回（臨時）教育研究審議会（5月15日）

### 第5回 役員会（5月16日）

- 1 債権償却（案）について承認
- 2 職員（建築職）採用試験の結果について承認

### 第6回 役員会（5月23日）

- 1 看護職員採用試験の合格者決定について承認

### 第7回 役員会（5月30日）

- 1 教育研究審議会案件について承認
  - (1) 平成24年度講座・教員研究費の配分について
  - (2) 平成23年度 決算報告について
  - (3) 経営審議会委員の選任について報告
  - (4) 大学院入学制度の充実について報告
  - (5) 外来患者駐車場の確保について報告

### 第8回 役員会（6月6日）

- 1 教育研究審議会案件について承認
  - (1) 教員の人事について
  - (2) 特任教員の配置について
  - (3) 教員の海外留学について
  - (4) 平成23年度業務実績報告書（案）について

### 第4回 教育研究審議会（6月7日）

- 1 教員の人事について承認
- 2 特任教員の配置について承認
- 3 教員の海外留学（期間延長）について承認
- 4 平成23年度業務実績報告書（案）について承認
- 5 臨床教授等の称号付与について承認
- 6 平成24年度講座・教員研究費の配分について

### 第5回 教育研究審議会（6月12日）

- 1 小児看護学領域教授候補者の決定について承認

### 第9回 役員会（6月13日）

- 1 小児看護学教授の決定について承認
- 2 教育研究審議会案件について承認
  - (1) 教員の人事について
  - (2) 看護職員採用試験の合格者決定について承認
  - (3) 平成23年度 業務実績報告書（案）について承認
  - (4) 平成23年度 事業報告書（案）について承認

### 第10回 役員会（6月20日）

- 1 平成23年度決算を承認
- 2 看護職員採用試験の合格者決定について承認
- 3 平成23年度内部監査結果について報告
- 4 治験経費受入れについての出来高制の導入について報告
- 5 監事の決定について報告

## 「メディア掲載情報」をお寄せください～学報紙面で紹介します～

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生を、この「学報」紙面で紹介します。

掲載者	掲載メディア	掲載概要
大崎茂芳 特任教授 (生体高分子学)	・PHYSICAL REVIEW LETTERSに掲載 ・ロシア国営テレビ ・「ちちんぷいぷい」「とくダネ」 ・「ニュースアンカー」「ならナビ」「ぐるっと関西」他	クモの糸でバイオリンの弦を作り、その音色が、従来の弦をセットしたストラディバリウスのそれと遜色ないことを裏付けた。 また、クモの糸の集合体において、隙間のない特異な構造を発見したことについて触れている。
細井裕司 教授 (耳鼻咽喉科)	朝日・毎日・産経・日経・読売新聞 他 朝刊 4月24・26日(火・木) BS Japan NIKKEI×BSLIVE [7PM] 5月15日(火)	2004年に、私はある種の圧電振動子を耳に当てると、軟骨を介して良好に音が内耳に伝わることを発見しました。それまで音伝達については気導と骨導の2種類しか知られていませんでしたが、この第3の音伝導現象を「軟骨伝導 (cartilage conduction)」と命名しました。今回の新聞・テレビ報道はこの現象の携帯電話への応用に関するものです。
浅田秀夫 教授 (皮膚科)	朝日放送 『モーニングバード!』 5月25日(金)	タレントの「みのもんた」さんの奥様の訃報に関連して、その原因の皮膚がんについて解説した。特に、見逃しやすい初期症状を中心に、臨床写真を提示して注意を喚起した。

このコーナー「メディア掲載情報」は、皆さんからの提供情報に基づき作成します。自薦、他薦を問いません。

【情報提供先】

ファックス等により、右記へお知らせください。法人企画部 総務課 総務係 (内線2206) FAX 25-7657

くわしくは、URL:[http://top.naramed-u.ac.jp/jimu/soumuka/O3soumu/media\\_joho.pdf](http://top.naramed-u.ac.jp/jimu/soumuka/O3soumu/media_joho.pdf) (学内専用)

# あなたの才能をのばす環境がここにある！

看護師助産師 募集(平成25年4月採用・随時採用)

病院見学会やインターンシップ(職場体験)を開催します。ぜひご参加ください。

【病院見学会】	8月3日(金)
【インターンシップ】	7月25・26日(水・木)、8月1・2日(水・木)、 8月8・9日(水・木)、8月22・23日(水・木)、 8月29・30日(水・木)
【採用試験】	7月22日(日)、8月19日(日)、9月23日(日)

必要書類や申込については、看護部ホームページをご覧ください。

URL <http://www.naramed-u.ac.jp/~bosyu/kango/>



学報バックナンバーはWebサイト上でもご覧いただけます  
(<http://www.naramed-u.ac.jp/info/introduction/magazine.html>)

## 下ツ道

(編集後記)

この春は附属病院の病院長・副院長らの交代がありました。新体制に大きく期待したいと思います。看護学研究科では大学院修士課程が始まり、医学科では研究医養成コースも始まりました。興味を持たれた方は7ページをご覧ください。

5月に「金環日食」、6月に「金星の太陽面通過」を見ることができましたね。「日食とは?」「太陽-金星-地球の位置関係は?」など改めて勉強し日食グラスを用意していざ観測! 2012年の天体ショーを楽しんでいます。次は8月の「金星食」ですね。  
今村知明

○今村 知明(健康政策医学)  
植村 正人(医療安全推進室)  
笹平 智則(分子病理学)  
藤本 雅文(物理学)  
坂東 春美(地域看護学)  
堀口 陽子(看護部)  
岡 眞啓(研究推進課)  
永井 淳(教育支援課)  
吉田 一良(病院管理課)  
大野 達也(総務課広報室)  
植松 聡(総務課広報室)  
(○印は編集委員長)

掲載希望の記事等については、各編集委員までお知らせください。